

2022年度 広聴調査の結果について（要旨）

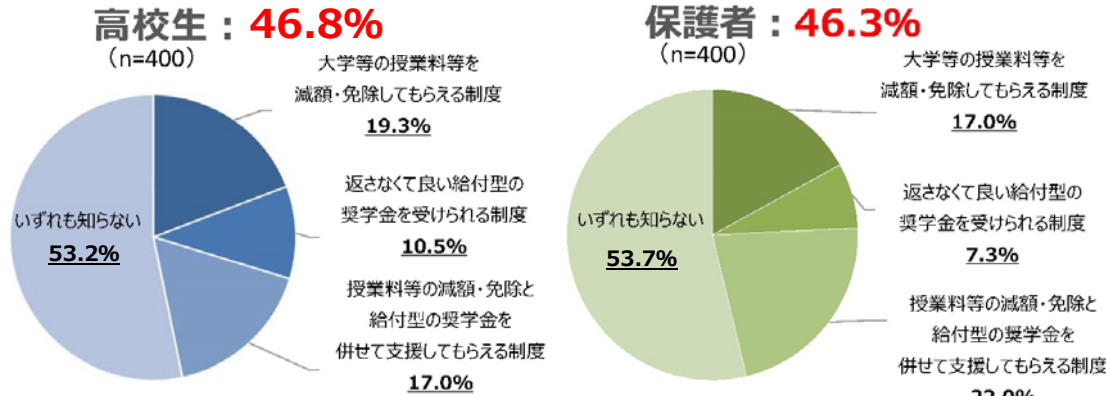
1. 調査概要

(1) 目的：高等教育の修学支援新制度及び留学支援等の日本学生支援機構の事業に関する情報提供のあり方の見直しに資するため。

(2) 調査対象・手法：①高等教育機関への進学希望のある高校生
②高等教育機関への進学希望のある高校生の子供を持つ保護者 } 各400名に対し、
委託業者によるWebアンケートを実施。

2. 結果の概要

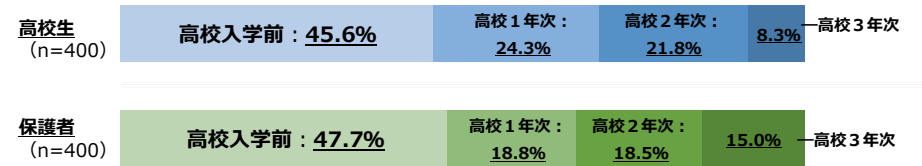
(1) 「高等教育の修学支援新制度」の認知率



(2) 「高等教育の修学支援新制度」の案内に適した情報経路（上位3項目）

高校生 (n=400) ※3つまで回答可		保護者 (n=400) ※3つまで回答可	
①	高校の先生または事務職員	49.5%	50.0%
②	テレビ	19.8%	26.5%
③	受験雑誌	18.0%	19.8%

(3) 「高等教育の修学支援新制度」の認知希望時期



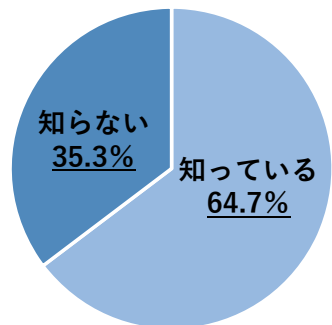
- ・ 高校生、保護者とも「高等教育の修学支援新制度」の認知率が50%を下回っており、更なる周知が必要。
- ・ 周知に適すと考えられる情報経路は「高校の先生または事務職員」という回答が多く、また「高校入学前」からの認知希望度も高いことから、初等中等教育段階の学校担当者向けの案内等を充実させることで認知状況の向上が期待できる。



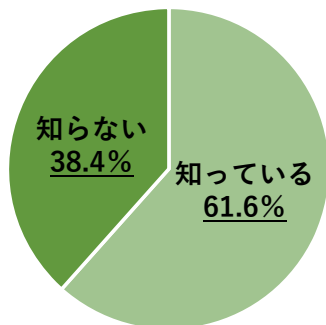
(4) 「高等教育の修学支援新制度」の詳細についての認知状況

① 「国などから一定の要件を満たすと認められた学校に進学（在学）した場合のみ、支援を受けることが可能となること」の認知状況

高校生 (n=187)

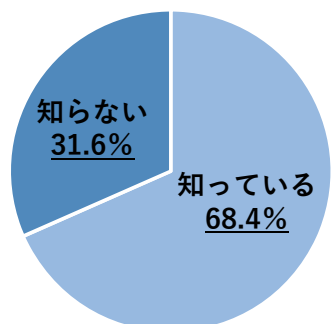


保護者 (n=185)

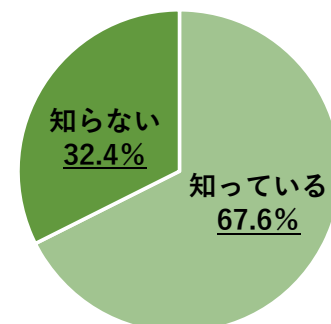


② 「授業料等の減免」と「給付奨学金」をセットで受けるためには「給付奨学金」を申し込む必要があること」の認知状況

高校生 (n=187)

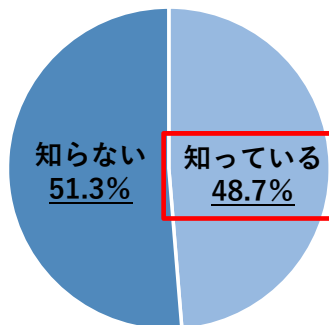


保護者 (n=185)

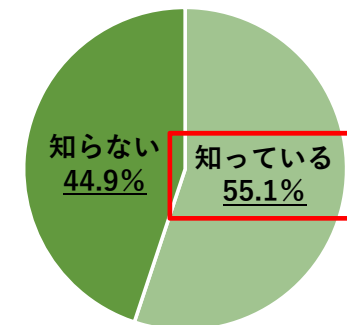


③ 「授業料等の減免」は大学等、「給付奨学金」は日本学生支援機構にそれぞれ申請手続きを行う必要があること」の認知状況

高校生 (n=187)



保護者 (n=185)



「高等教育の修学支援新制度」の詳細について、「授業料等の減免」は大学等、「給付奨学金」は日本学生支援機構にそれぞれ申請手続きを行う必要があることの認知率が他の2つと比較して低いという結果が出た。

「高等教育の修学支援新制度」の広報にあたっては、この点について、より重点的に周知する必要があると考えられる。

(5)奨学金利用の際に知りたい情報

高校生 (n=400) ※複数回答可		保護者 (n=400) ※複数回答可	
採用基準 (どのような人が受けられるのか)	42.3%	返還月額 (毎月いくら返すのか)	44.0%
返還月額 (毎月いくら返すのか)	41.0%	奨学金の種類 (どのような奨学金があるか)	42.0%
申込方法 (手続き方法)	39.0%	貸与・給付総額 (全部でいくら受けられるのか、 いくら返すことになるのか)	40.3%
奨学金の種類 (どのような奨学金があるか)	38.3%	貸与・給付月額 (毎月受けられる金額)	38.0%
貸与・給付総額 (全部でいくら受けられるのか、 いくら返すことになるのか)	37.8%	返還方法 (どのように返すことになるのか)	35.3%
貸与・給付月額 (毎月受けられる金額)	37.0%	申込方法 (手続き方法)	35.0%
返還方法 (どのように返すことになるのか)	34.8%	採用基準 (どのような人が受けられるのか)	35.0%
利子をつけて返還する奨学金の返還利率 (どのくらい利子を払うことになるのか)	27.8%	利子をつけて返還する奨学金の返還利率 (どのくらい利子を払うことになるのか)	32.0%
約束通りの返還ができなくなった場合の 救済制度	20.3%	約束通りの返還ができなくなった場合の 救済制度	22.5%
繰上返還 (予定より早く返還する方法)	14.8%	機関保証制度 (お金を借りる時に必要な連帯保証人、 保証人を選ぶ代わりに保証機関に保証料を 払う)	20.8%
機関保証制度 (お金を借りる時に必要な連帯保証人、 保証人を選ぶ代わりに保証機関に保証料を 払う)	11.8%	繰上返還 (予定より早く返還する方法)	18.5%

➡ 奨学金の利用を考えるにあたり知りたい情報について、高校生、保護者とも実際の申込みを見据え、特に「返還」について重視していることが分かる。

(6)「海外留学支援事業」の認知状況

※「知っているものはない」という回答を除いた上位4項目

高校生 (n=35) ※複数回答可			保護者 (n=36) ※複数回答可		
①	海外留学フェアなどの イベント実施	31.4%	①	インターネットによる 留学情報の提供	36.1%
②	インターネットによる 留学情報の提供	28.6%	②	海外留学のための 給付型奨学金	22.2%
②	海外留学のための 給付型奨学金	28.6%	②	海外留学のための 貸与型奨学金	22.2%
②	海外留学のための 貸与型奨学金	28.6%	④	海外留学フェアなどの イベント実施	16.7%

➡ 高校生と比較すると保護者では「海外留学フェアなどのイベント実施」についての認知率が低いため、イベントの参加者を増やすためには保護者へ向けた周知も重要であると考えられる。

(7)海外留学について知りたい情報

高校生 (n=145) ※複数回答可			保護者 (n=100) ※複数回答可		
①	留学費用	72.4%	①	留学費用	68.0%
②	現地の生活環境	58.6%	②	現地の生活環境	62.0%
③	現地の治安情報	51.0%	③	現地の治安情報	55.0%
④	留学先の教育事情 (何を学べるか、学位は 取れるか、ランキング、 語学教育の状況等)	48.3%	④	留学先の教育事情 (何を学べるか、学位は 取れるか、ランキング、 語学教育の状況等)	53.0%

➡ ・高校生、保護者とも「留学費用」を最も重視している。
・高校生、保護者とも「留学先の教育事情」より留学先の環境（生活環境、治安等）についての情報を得たいと考えていることが分かる。



独立行政法人日本学生支援機構

2022年度 広聴調査の概要

目次

調査概要	3p
調査結果	4p
1 回答者プロフィール	5p
2 「高等教育の修学支援新制度」の認知状況	8p
3 「高等教育の修学支援新制度」の認知経路	13p
4 「高等教育の修学支援新制度」の認知時期	14p
5 「高等教育の修学支援新制度」の案内に適した情報経路	15p
6 「高等教育の修学支援新制度」の認知希望時期	17p
7 進学に関する情報の収集経路	18p
8 高校での情報収集場面	20p
9 日本学生支援機構の事業認知状況	22p
10 「国内の学校へ進学するための奨学金事業」の認知時期	24p
11 日本学生支援機構の奨学金利用意向	25p
12 奨学金利用の際に知りたい情報	27p
13 日本学生支援機構の奨学金認知状況	29p
14 「進学資金シミュレーター」の認知状況	31p
15 「海外留学支援事業」の認知状況	33p
16 留学経験別留学意向	35p
17 海外留学期間の予定	36p
18 海外留学検討の際に必要な支援内容	37p
19 海外留学について知りたい情報	39p
20 海外留学の情報収集経路	41p
21 日本学生支援機構の海外留学向け情報提供ツールの利用状況	43p
22 外国人留学生との交流	45p
23 外国人留学生とのイベントの認知に適した方法	47p
24 日本学生支援機構に対してイメージされた単語	49p
25 日本学生支援機構へのご意見・ご要望	52p

調査概要（2022年度広聴調査 2006年度より隔年で実施。今回は2020年度に実施）

調査目的	<ul style="list-style-type: none">・日本学生支援機構（以下「JASSO」）の事業に関する情報提供の在り方の見直しに資する情報の収集・特に高等教育の修学支援新制度や海外留学に係る事業の認知度やその情報入手の方法などについて調査
調査エリア	全国47都道府県
調査対象者	<ul style="list-style-type: none">①高等教育機関への進学希望のある高校生（以下「高校生」）②高等教育機関への進学希望のある高校生の子供を持つ保護者（以下「保護者」） ※①と②は必ずしも親子ではない
サンプル数・割付	有効回答数 800名 【割付】 高校生 400名 保護者 400名
調査期間	2023年1月31日（火）～2023年2月2日（木）
調査手法	インターネット定量調査



調查結果

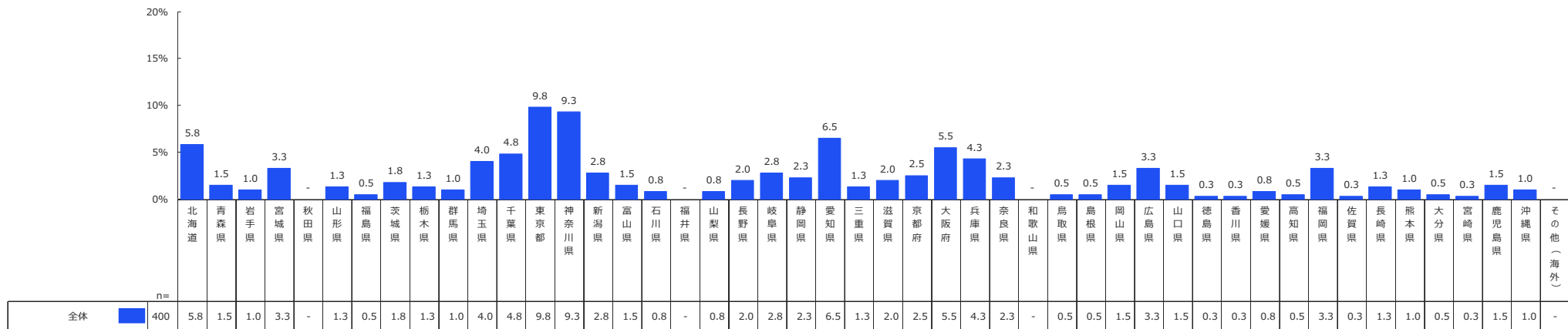
1 回答者プロフィール

※四捨五入の都合上、合計値が100%にならない。

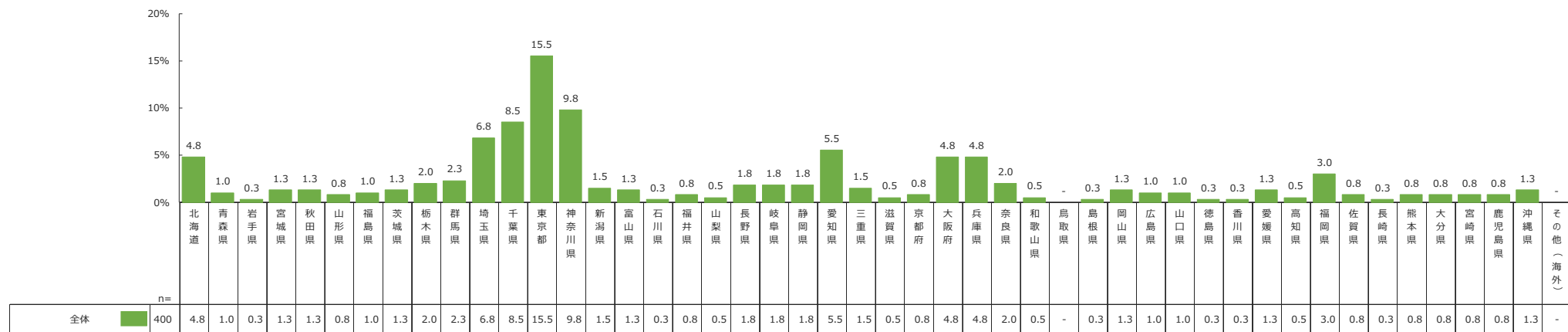
高校生

保護者

居住地（高校生）（n=400名）

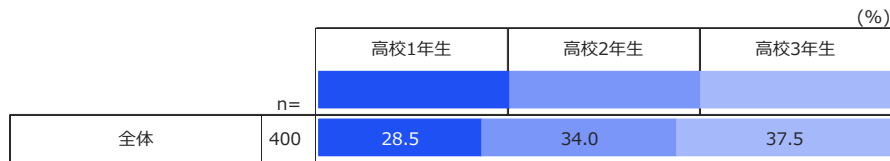


居住地（保護者）（n=400名）

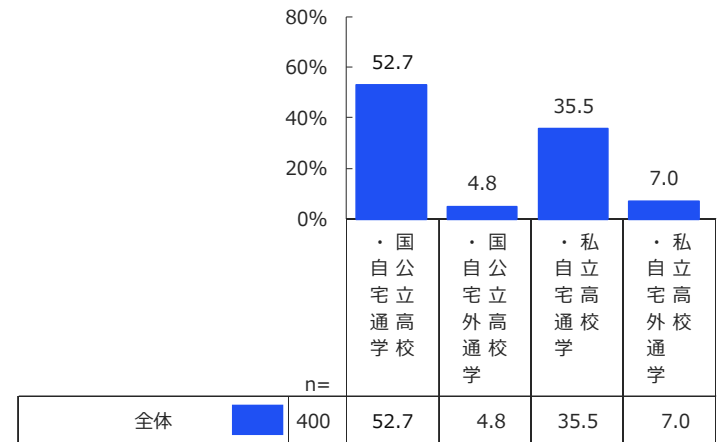


1 回答者プロフィール

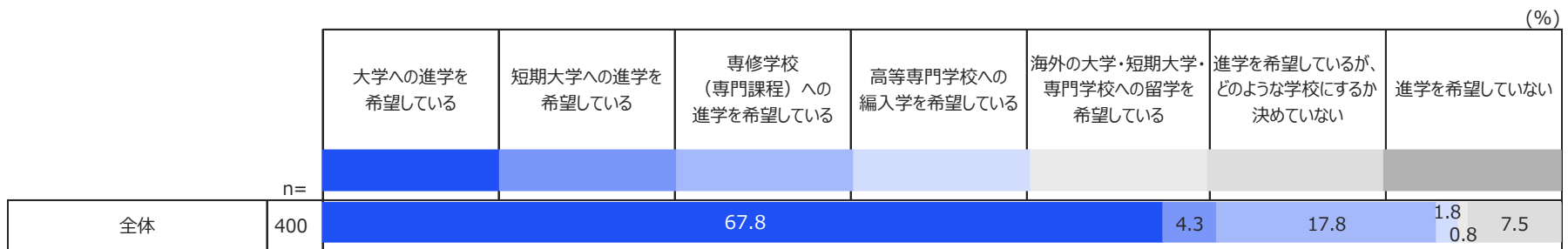
学年



高校種別と通学状況



希望進学先



1 回答者プロフィール

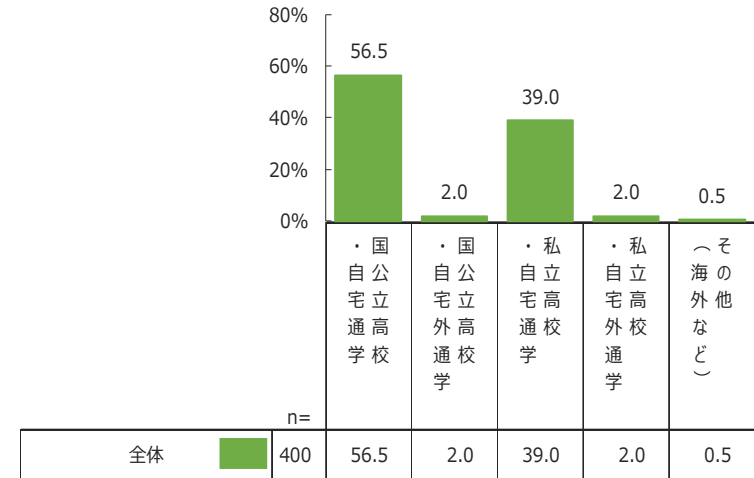
※高校生の子が2名以上いる場合は、年齢が一番上の子について回答

保護者

高校生の子どもの学年

		(%)		
		高校1年生	高校2年生	高校3年生
全体	n=400	31.5	30.8	37.7

子どもの高校種別と通学状況



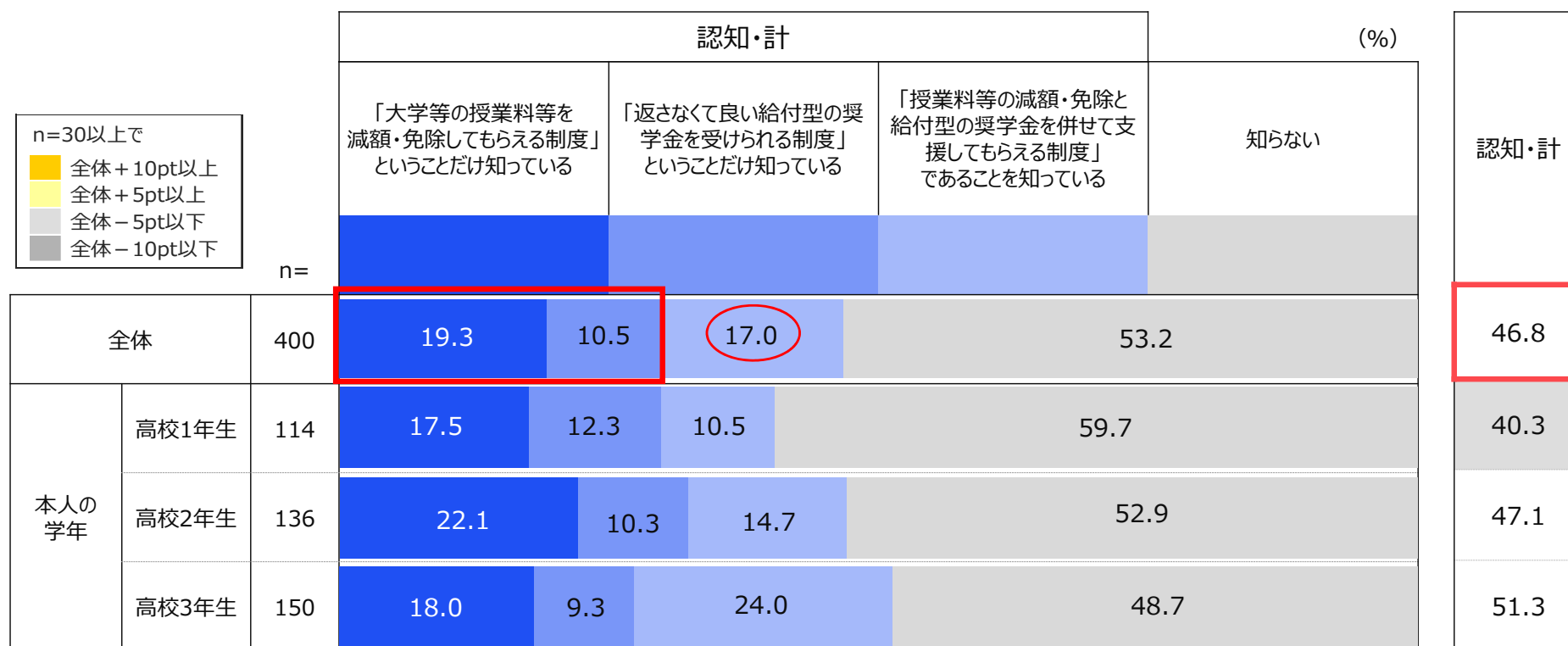
子どもの希望進学先

		(%)						
		大学への進学を希望している	短期大学への進学を希望している	専修学校(専門課程)への進学を希望している	高等専門学校への編入学を希望している	海外の大学・短期大学・専門学校への留学を希望している	進学を希望しているが、どのような学校にするか決めていない	進学を希望していない
全体	n=400	77.8	2.3	10.3	1.3	0.8	7.5	

2 「高等教育の修学支援新制度」の認知状況

高校生

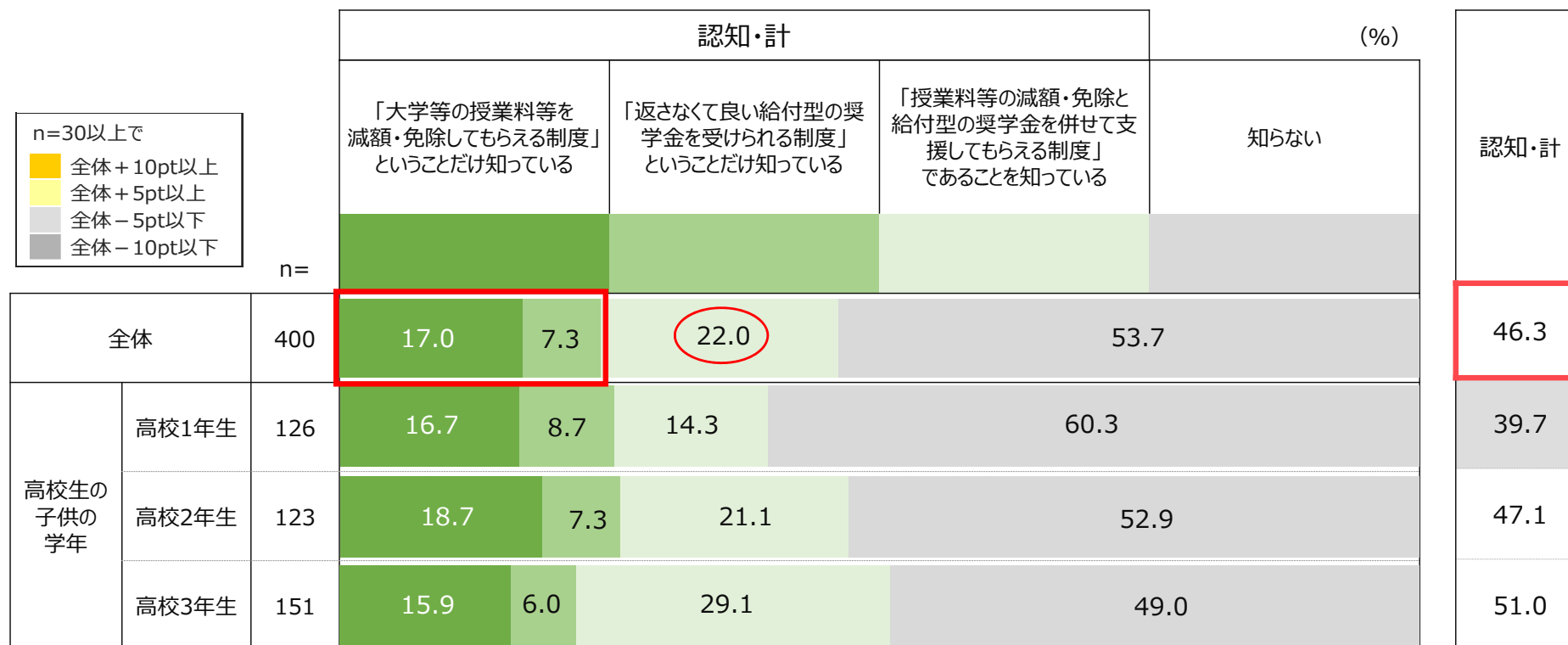
- 高校生全体では、「高等教育の修学支援新制度」を認知している人の合計は47%。うち、授業料等の減免と給付型の奨学金の両方を認知していた人は17%。
- 「「大学等の授業料等を減額・免除してもらえらるる制度」ということだけ知っている」は19%、「「返さなくて良い給付型の奨学金を受けられる制度」ということだけ知っている」は11%なので、授業料等の減免のほうがより認知されている。



Q1 「高等教育の修学支援新制度」は令和2年度から始まった学業に関する国の支援制度です。制度についてあなたが知っているものを選んでください。(単一回答)

2 「高等教育の修学支援新制度」の認知状況

- 保護者全体では、「高等教育の修学支援新制度」を認知している人の合計は46%。うち、授業料等の減免と給付型の奨学金の両方を認知していた人は22%。
- 「「大学等の授業料等を減額・免除してもらえる制度」ということだけ知っている」は17%、「「返さなくて良い給付型の奨学金を受けられる制度」ということだけ知っている」は7%なので、授業料等の減免のほうがより認知されている。この傾向は高校生と同じである。



Q1 「高等教育の修学支援新制度」は令和2年度から始まった学業に関する国の支援制度です。制度についてあなたが知っているものを選んでください。(単一回答)

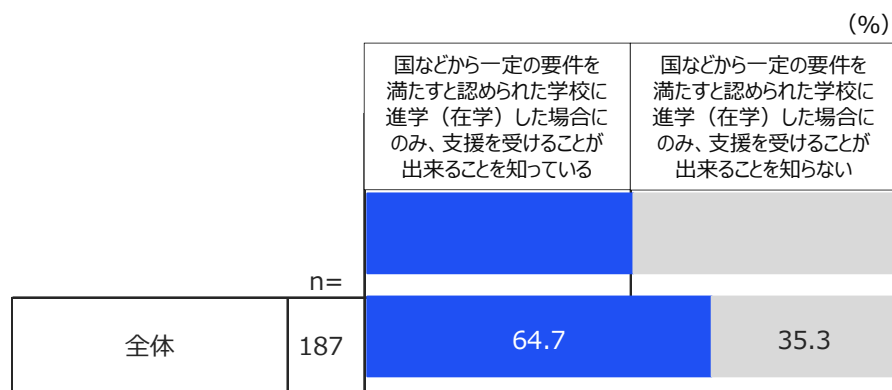
2 「高等教育の修学支援新制度」の認知状況

高校生

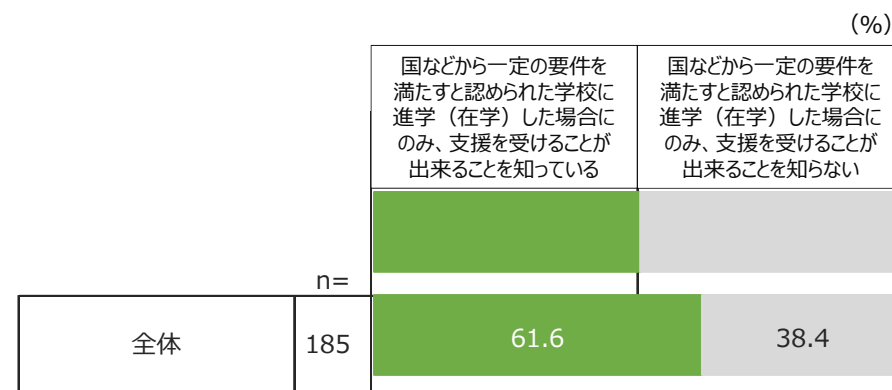
保護者

- 高校生全体では、「国などから一定の要件を満たすと認められた学校に進学（在学）した場合にのみ、支援を受けることが可能となることを知っている」のは65%。保護者全体では、62%。高校生と保護者の認知状況にはあまり差がない。

高校生



保護者



Q2 「高等教育の修学支援新制度」は、国などから一定の要件を満たすと認められた学校に進学（在学）した場合にのみ、支援を受けることが出来ます。あなたはこのことを知っていますか。
(単一回答)

【Q1：「[「大学等の授業料等を減額・免除してもらえらるる制度」ということだけ知っている]」、「[「返さなくて良い給付型の奨学金を受けられる制度」ということだけ知っている]」、「[「授業料等の減額・免除と給付型の奨学金を併せて支援してもらえらるる制度」であること知っている]選択者】

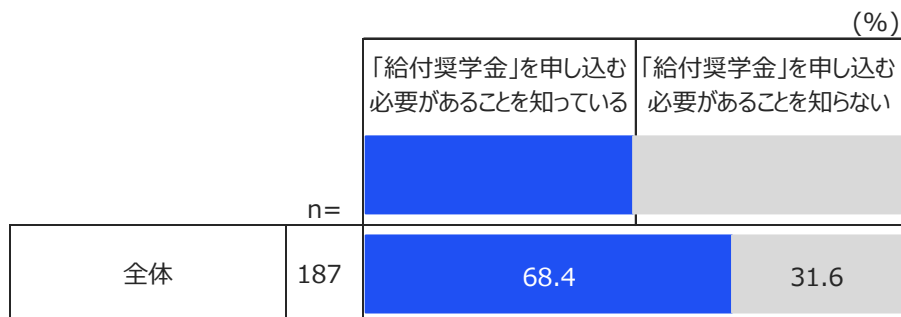
2 「高等教育の修学支援新制度」の認知状況

高校生

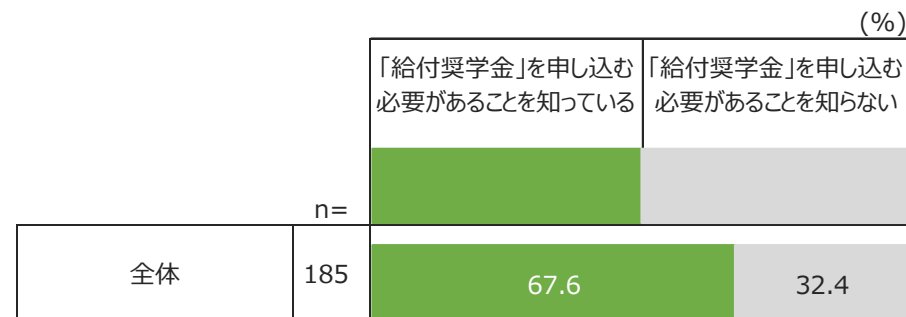
保護者

- 高校生全体では、「授業料等の減額・免除」と「給付奨学金」の支援をセットで受けるためには、「給付奨学金」を申し込む必要があることを知っている」のは68%。保護者全体でも、68%。高校生と保護者の認知状況には差がない。

高校生



保護者



Q3 「高等教育の修学支援新制度」は「授業料等の減額・免除」と「給付奨学金」の2つの支援により学生をサポートする制度です。この2つの支援をセットで受けるためには、まず「給付奨学金」を申し込む必要があります。あなたはこのことを知っていますか。（単一回答）

【Q1：「大学等の授業料等を減額・免除してもらえらる制度」ということだけ知っている」、「返さなくて良い給付型の奨学金を受けられる制度」ということだけ知っている」、「授業料等の減額・免除と給付型の奨学金を併せて支援してもらえらる制度」であるを知っている】選択者】

2 「高等教育の修学支援新制度」の認知状況

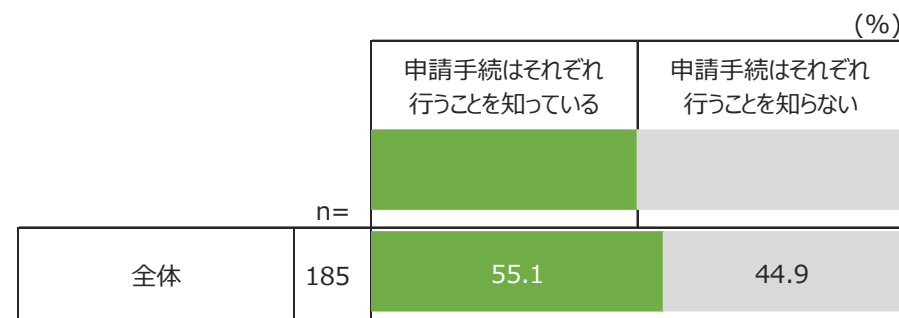
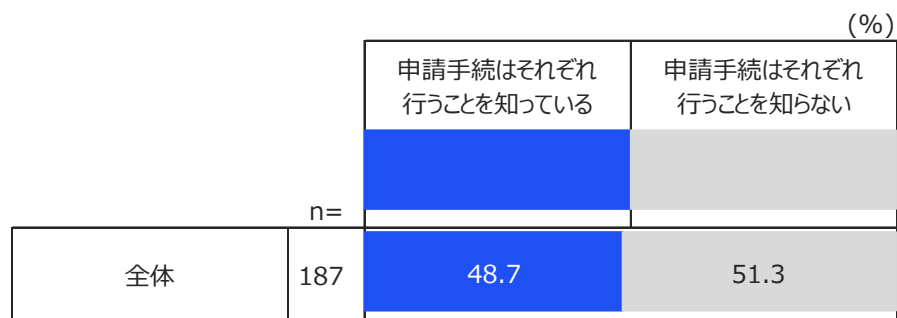
高校生

保護者

- 高校生全体では、「授業料等の減額・免除」は大学等、「給付型奨学金」はJASSOに申請を行う必要があることを知っている」のは49%。保護者全体では、55%。保護者の方が認知率が高い。
- 新制度の詳細についてのQ2からQ4（P10～12）の中で、本問（Q4）の認知率が他の2つに比べて7～19%低い。新制度の広報にあたっては、授業料等の減免と給付型奨学金はそれぞれ手続きを行う必要があることを重点的に周知する必要があると考えられる。

高校生

保護者

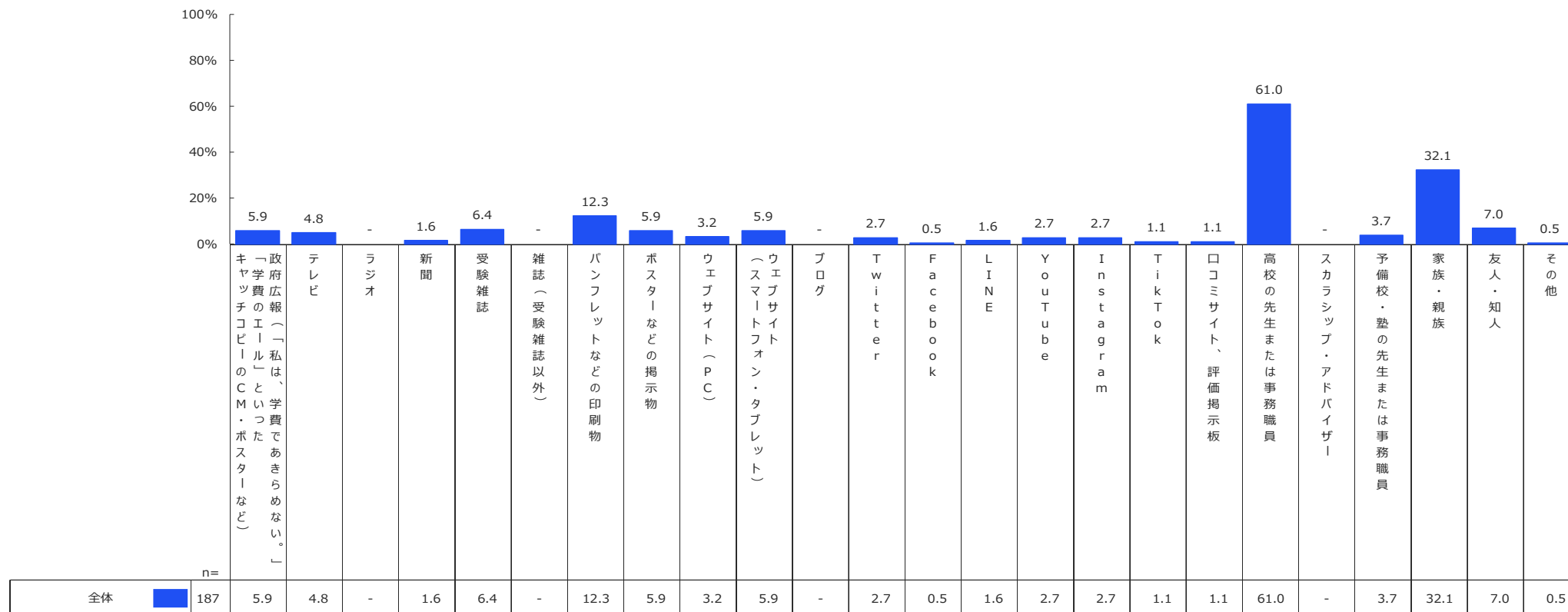


Q4 「授業料等の減額・免除」は大学等が行い、「給付型奨学金」は日本学生支援機構（JASSO）が「給付奨学金」として支給します。申請手続きはそれぞれ行う必要があります。あなたはこのことを知っていますか。（単一回答）

【Q1：「大学等の授業料等を減額・免除してもらえる制度」ということだけ知っている、「返さなくて良い給付型の奨学金を受けられる制度」ということだけ知っている、「授業料等の減額・免除と給付型の奨学金を併せて支援してもらえる制度」であることを知っている】選択者】

3 「高等教育の修学支援新制度」の認知経路

- 新制度について、高校生全体では、「高校の先生または事務職員」を通じて知ったとの回答が61%で最も高く、次点は「家族・親族」（32%）。
- 一般的にはSNS利用者が多い年代だが、進学や支援制度に関しては情報入手経路が異なり、SNSなどではなく、人を介して認知するケースが多い。



Q5 「高等教育の修学支援新制度」の内容について、どこで（何で）知りましたか。主なものを3つまで選んでください。（複数回答）
 【Q1：「大学等の授業料等を減額・免除してもらえる制度」ということだけ知っている」、「返さなくて良い給付型の奨学金を受けられる制度」ということだけ知っている」、「授業料等の減額・免除と給付型の奨学金を併せて支援してもらえる制度」であることを知っている】選択者】

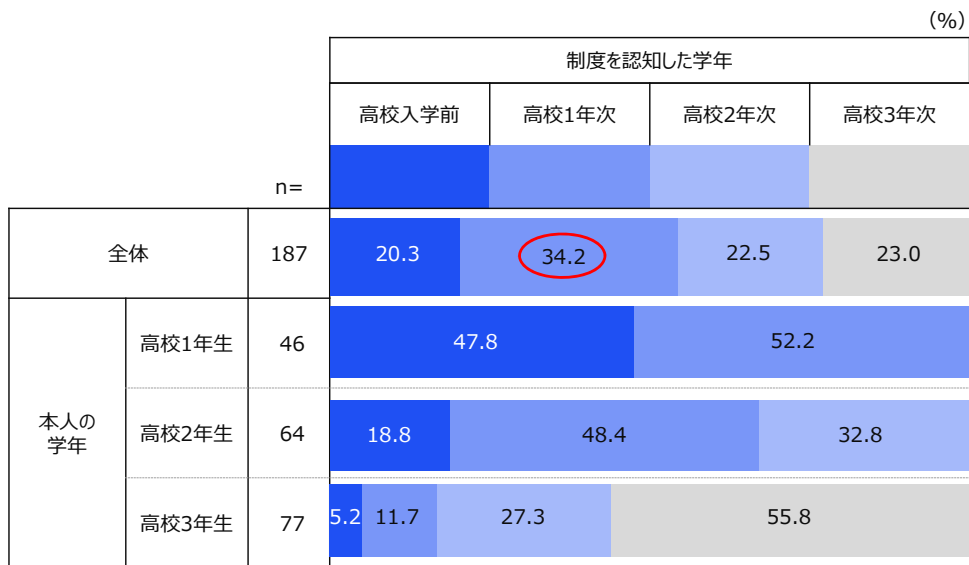
4 「高等教育の修学支援新制度」の認知時期

高校生

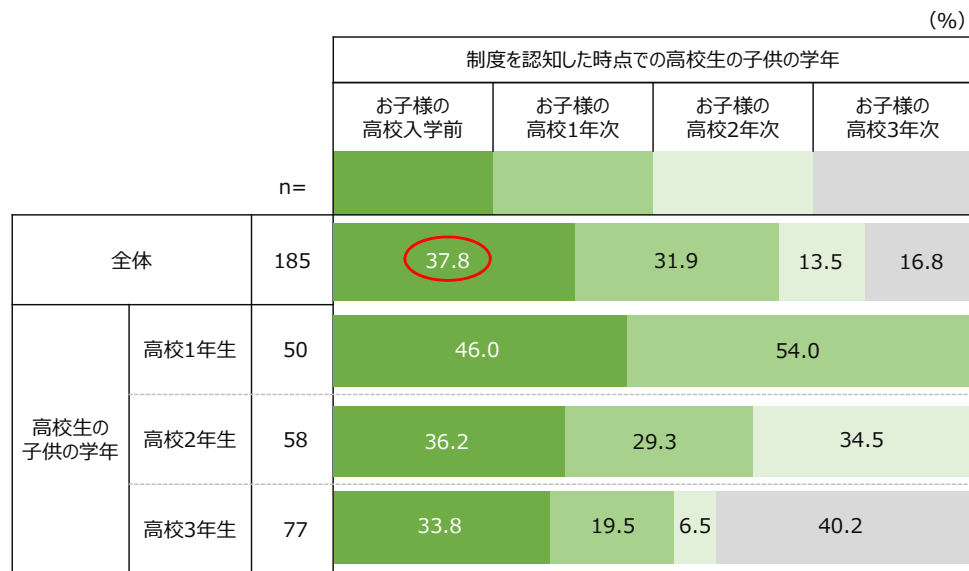
保護者

- 新制度を認知した時期について、高校生全体では、「高校1年次」が34%で最も高く、「高校3年次」(23%)、「高校2年次」(23%)と続く。
- 保護者全体では、「お子様の高校入学前」が38%で最も高く、「お子様の高校1年次」(32%)、「お子様の高校3年次」(17%)と続く。
高校生と比べると保護者のほうが認知する時期が早い傾向。

高校生



保護者



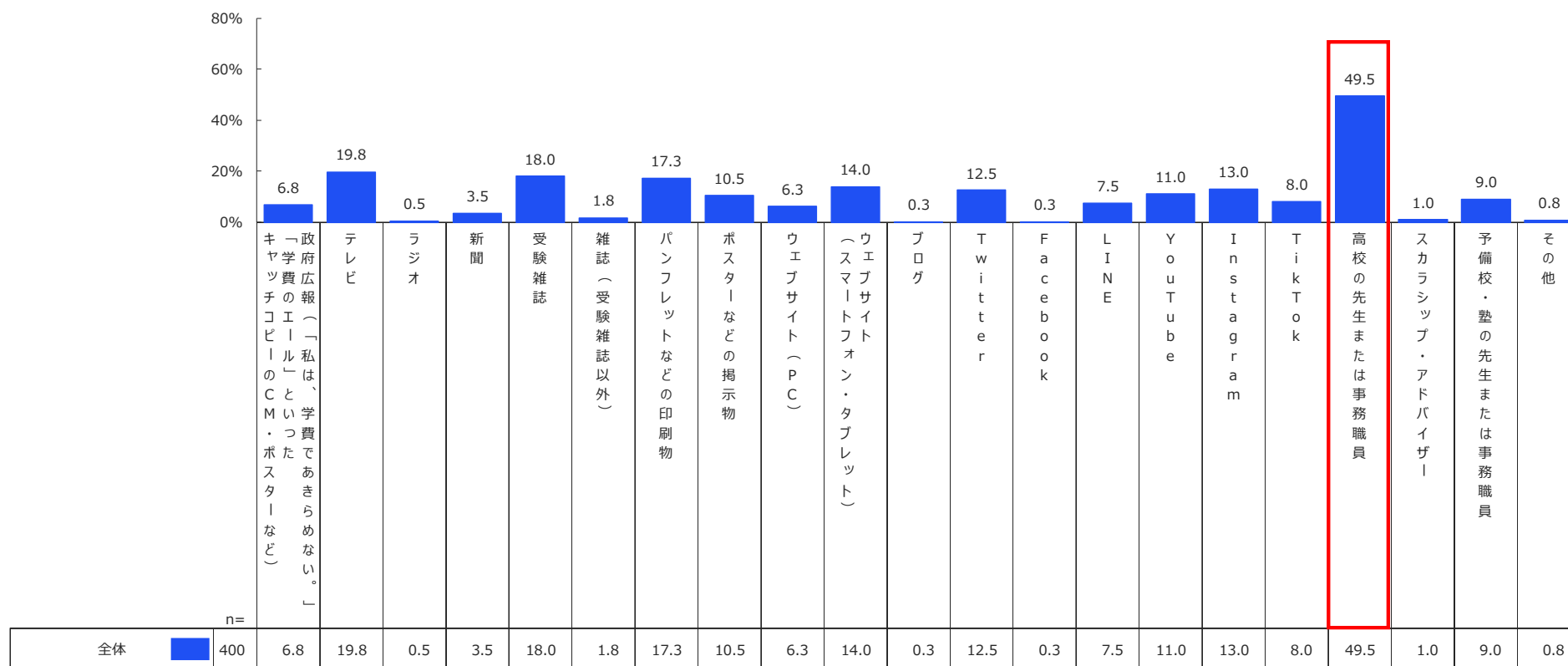
Q6 あなたは「高等教育の修学支援新制度」の内容について、いつ知りましたか。(単一回答)

【Q1: 「「大学等の授業料等を減額・免除してもらえる制度」ということだけ知っている」、「返さなくて良い給付型の奨学金を受けられる制度」ということだけ知っている」、「授業料等の減額・免除と給付型の奨学金を併せて支援してもらえる制度」であることを知っている】選択者】

5 「高等教育の修学支援新制度」の案内に適した情報経路

高校生

- 新制度についての案内に適した経路/媒体として、高校生全体では、「高校の先生または事務職員」が50%で最も高く、実際の認知経路（Q5）（P13）と同様に突出している。「テレビ」（20%）、「受験雑誌」（18%）、「パンフレットなどの印刷物」（17%）と続く。
- 一般的にはSNS利用者が多い年代だが、進学や支援制度に関しては情報入手経路が違うという結果と読み取れる。
- 「受験雑誌」や「パンフレットなどの印刷物」との回答が一定数あることから、マスコミ・自治体等が作成する広報物に、JASSOから積極的な情報提供を行うことが効果的であると考えられる。

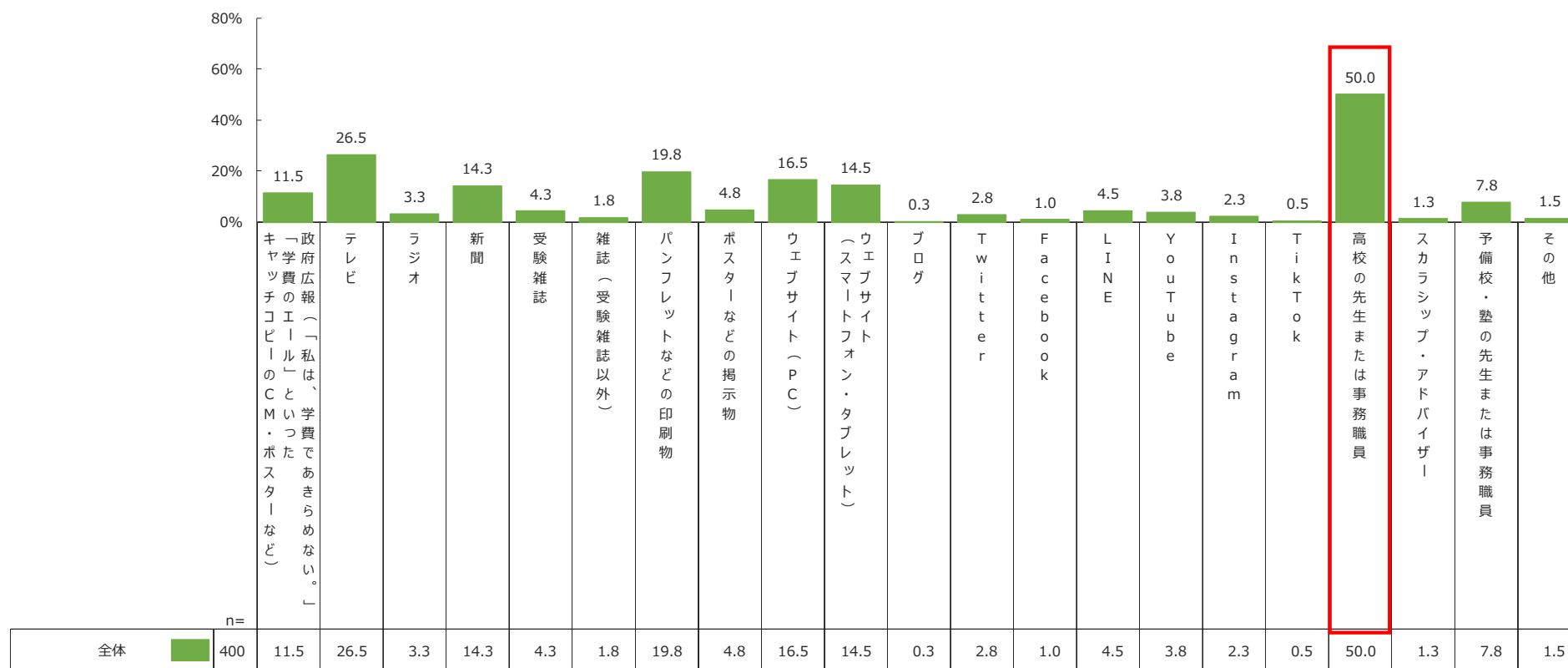


Q7 「高等教育の修学支援新制度」などの進学に関する情報は、どのようなもので案内されていたらより知ることができた（またはできる）と思いますか。主なものを3つまで選んでください。（複数回答）

5 「高等教育の修学支援新制度」の案内に適した情報経路

保護者

- 新制度についての案内に適した経路/媒体として、保護者全体では、「高校の先生または事務職員」が50%で最も高く、「テレビ」(27%)、「パンフレットなどの印刷物」(20%)と続く。
- 「パンフレットなどの印刷物」との回答が一定数あるのは高校生と同様。



Q7 「高等教育の修学支援新制度」などの進学に関する情報は、どのようなもので案内されていたらより知る事ができた(またはできる)と思いますか。主なものを3つまで選んでください。(複数回答)

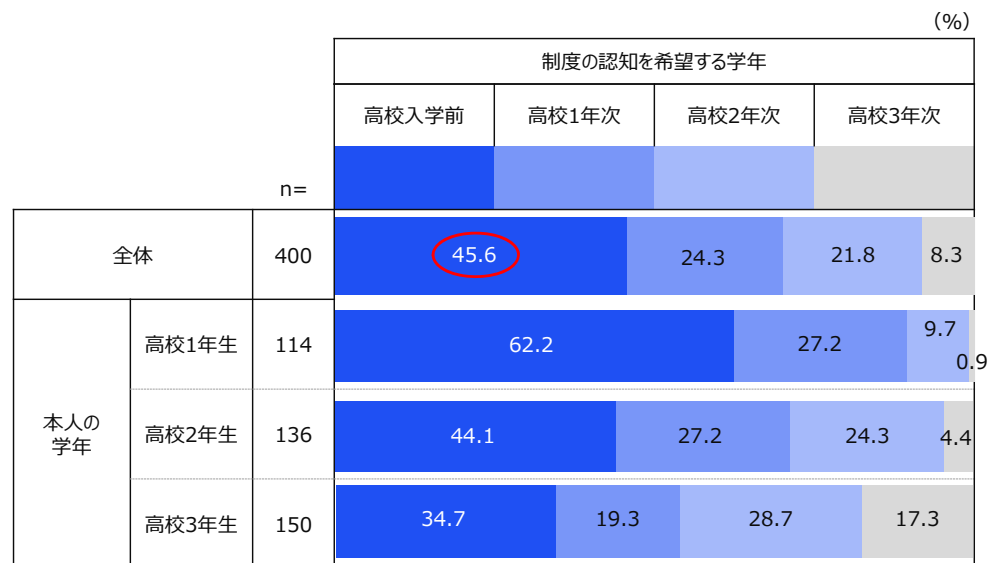
6 「高等教育の修学支援新制度」の認知希望時期

高校生

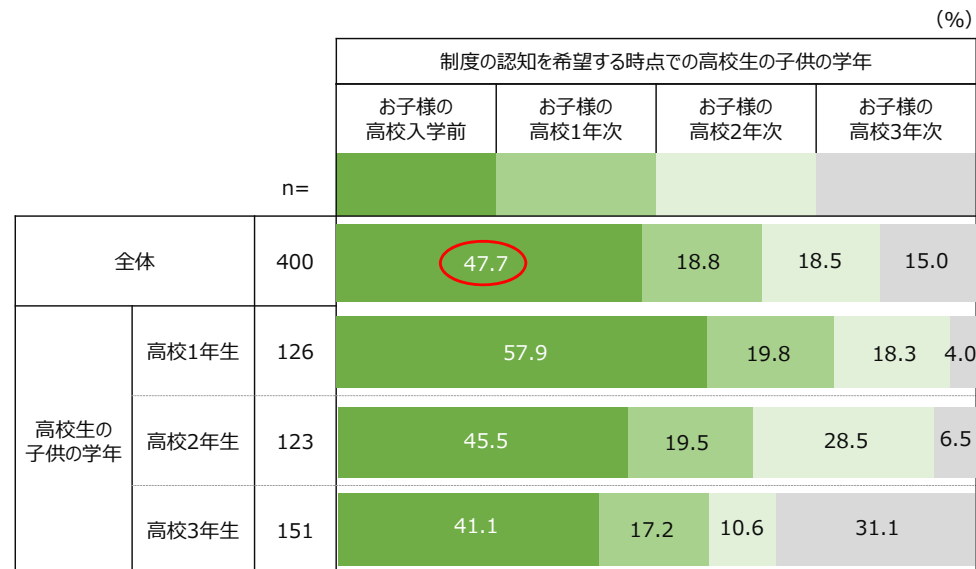
保護者

- 新制度などの進学情報を知りたい（知りたかった）時期については、高校生全体では、「高校入学前」が46%で最も高く、P14「4「高等教育の修学支援新制度」の認知時期」の結果より、実際の認知時期では「高校1年次」が34%で最も高かったことから、もっと早く知りたかったという心境がうかがえる。
- 保護者全体では、「お子様の高校入学前」が48%で最も高い。入学前に知りたかったという点に関しては、高校生と同様な傾向。
- 新制度について現在JASSOでは高校生を対象に周知しているが、高校生・保護者ともに高校入学前に情報を得たいという希望が多いため、周知の時期を検討する必要があると考えられる。

高校生



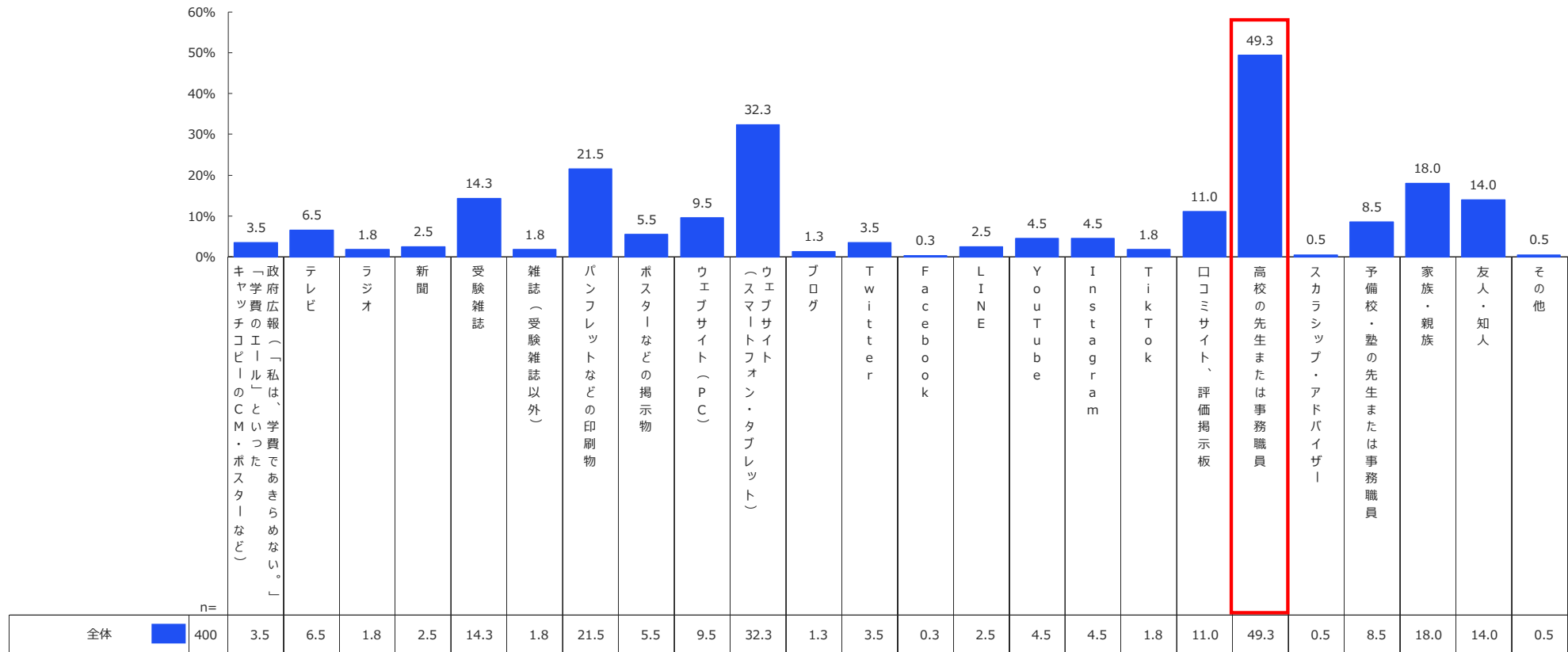
保護者



Q8 「高等教育の修学支援新制度」などの進学に関する情報は、いつ知りたい（知りたかった）ですか。（単一回答）

7 進学に関する情報の収集経路

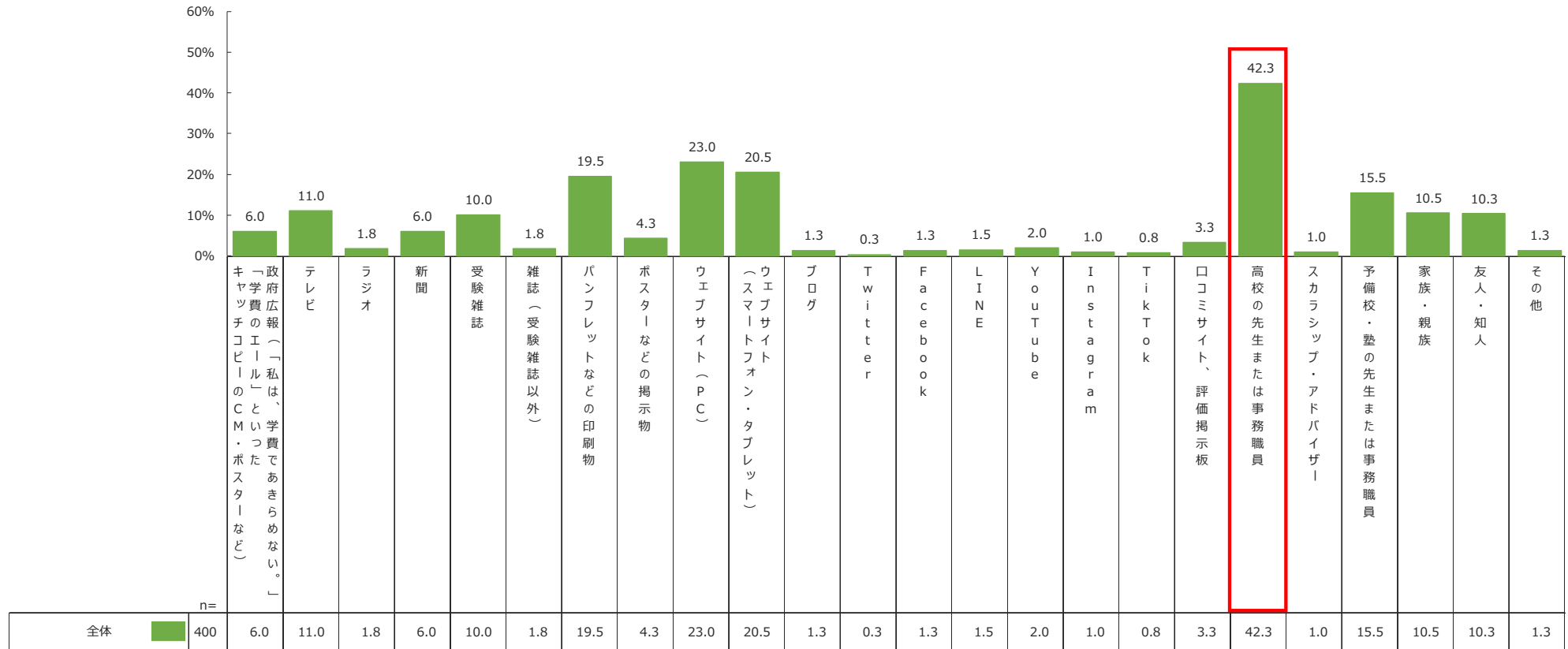
- 進学情報の入手元として、高校生全体では、「高校の先生または事務職員」が49%で最も高く、「ウェブサイト（スマートフォン・タブレット）」（32%）、「パンフレットなどの印刷物」（22%）と続く。
- 一般的にはSNS利用者が多い年代だが、進学や支援制度に関しては情報入手経路が違うという結果と読み取れる。
- 「高校の先生または事務職員」から情報を入手している割合が高いことから、学校関係者が普及の鍵を握っていることがうかがえ、「高校の先生または事務職員」に活用いただく資料等を充実させる必要があると考えられる。



Q9 あなたは国内進学に関する情報（学校の施設・設備、学部・学科、費用、卒業後の進路・就職など）を、どこから入手しますか（または入手しましたか）。主なものを3つまで選んでください。（複数回答）

7 進学に関する情報の収集経路

- 進学情報の入手元として、保護者全体では、「高校の先生または事務職員」が42%で最も高く、他の項目と大きく差をつけた。「ウェブサイト（PC）」（23%）、「ウェブサイト（スマートフォン・タブレット）」（21%）と続く。
- 高校生と同様、「高校の先生または事務職員」からの情報入手の割合が高く、学校関係者が普及の鍵を握っていることがうかがえ、「高校の先生または事務職員」に活用いただく資料等を充実させる必要があると考えられる。

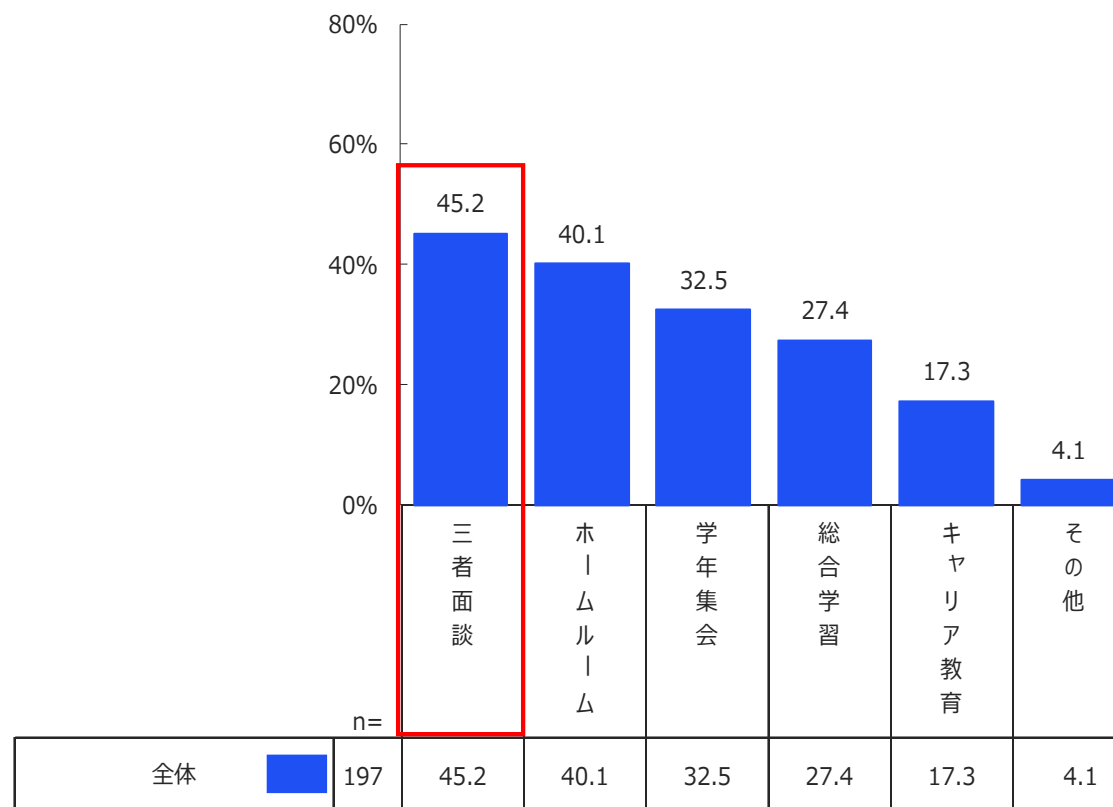


Q9 あなたは国内進学に関する情報（学校の施設・設備、学部・学科、費用、卒業後の進路・就職など）を、どこから入手しますか（または入手しましたか）。主なものを3つまで選んでください。（複数回答）

8 高校での情報収集場面

高校生

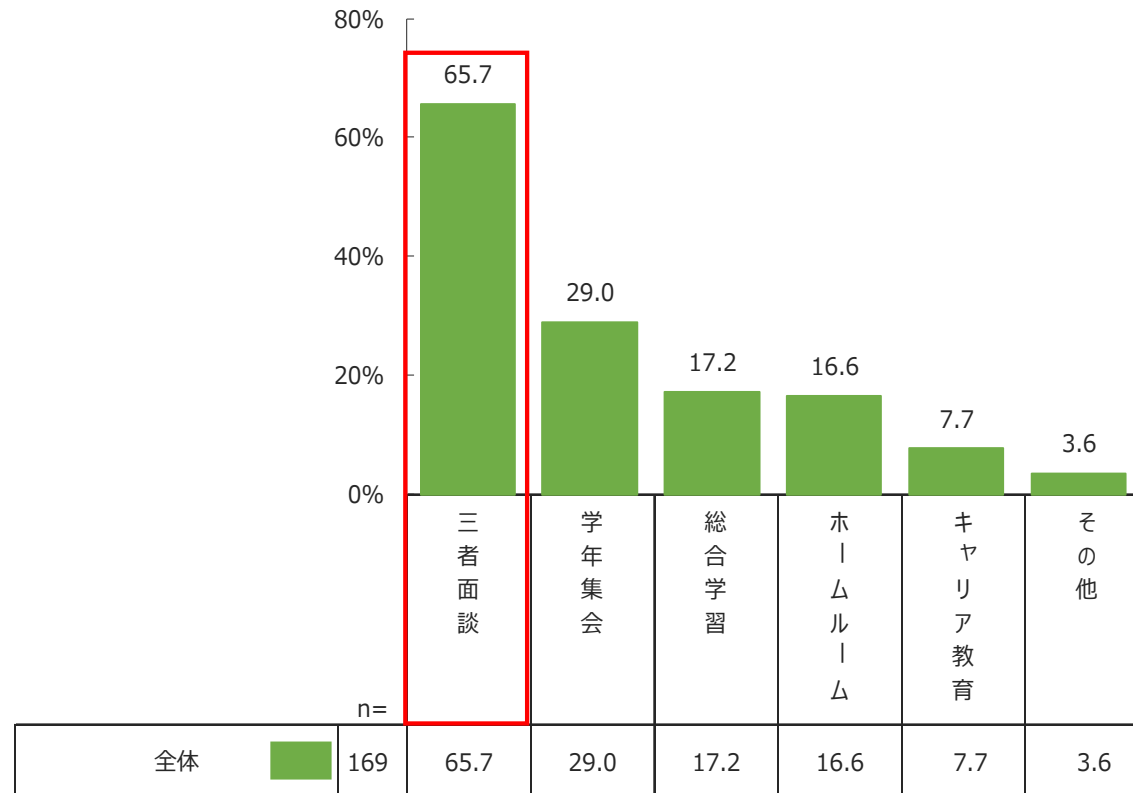
- 「高校の先生または事務職員」から進学に関する情報を入手する機会として、高校生全体では、「三者面談」が45%で最も高く、「ホームルーム」(40%)、「学年集会」(33%)と続く。
- 大勢の前ではなく、「三者面談」のような先生と直接話しやすい場面で情報収集している傾向。



Q10 国内進学に関する情報（学校の施設・設備、学部・学科、費用、卒業後の進路・就職など）を、高校の先生または事務職員から入手したと回答した方はどのような場面で入手しましたか。
主なものを3つまで選んでください。（複数回答）
【Q9：「高校の先生または事務職員」選択者】

8 高校での情報収集場面

- 「高校の先生または事務職員」から進学に関する情報を入手する機会として、保護者全体では、「三者面談」が66%と最も高く、「学年集会」（29%）、「総合学習」（17%）と続く。
高校生と比べると、「三者面談」の割合が高く、「三者面談」が貴重な情報収集の場面になっていることがうかがえる。
- 高校生・保護者とも「三者面談」で進学に関する情報を入手する割合が高いため、「三者面談」で活用できる資料の作成が効果的であると考えられる。



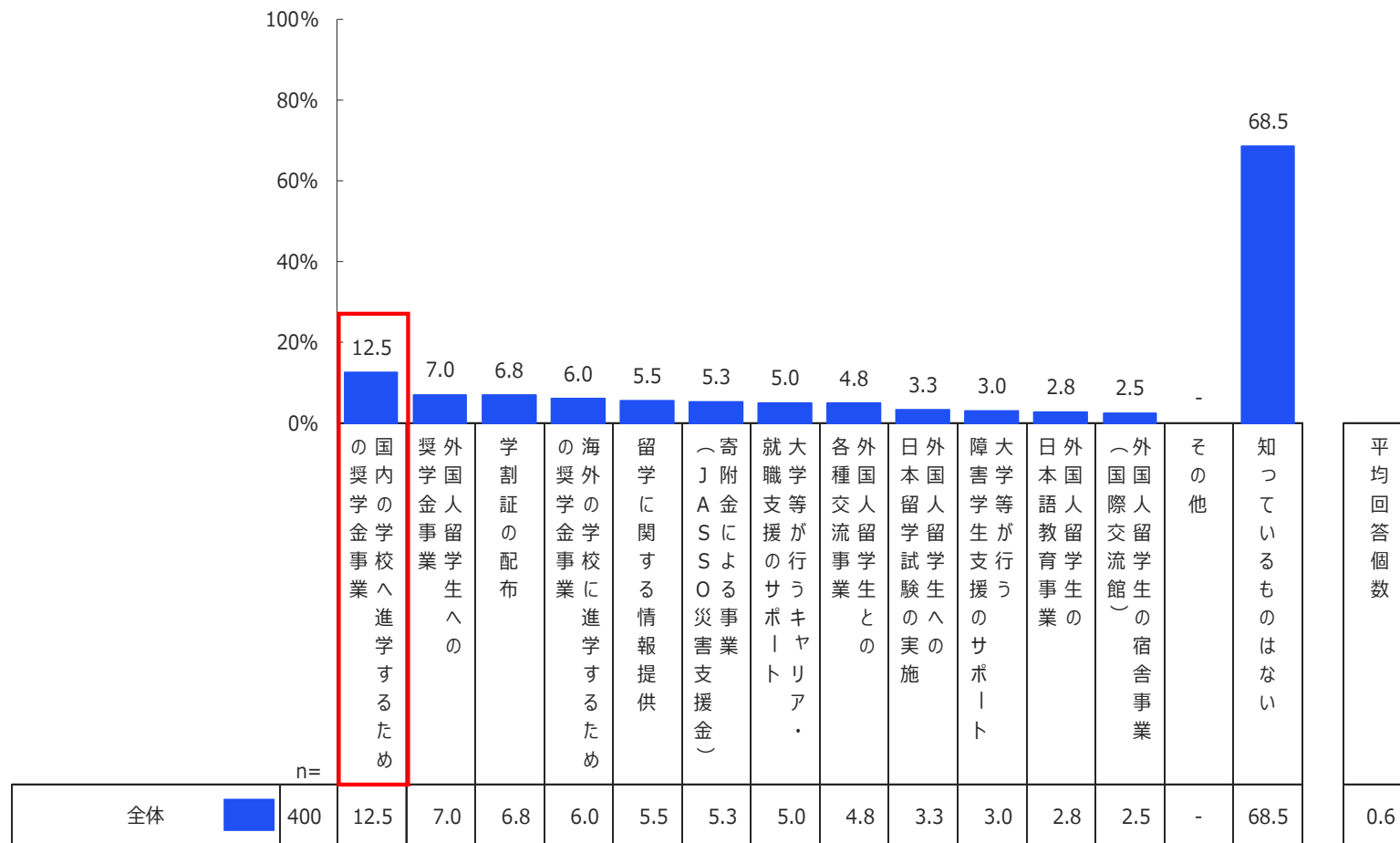
Q10 国内進学に関する情報（学校の施設・設備、学部・学科、費用、卒業後の進路・就職など）を、高校の先生または事務職員から入手したと回答した方はどのような場面で入手しましたか。
主なものを3つまで選んでください。（複数回答）

【Q9：「高校の先生または事務職員」選択者】

9 日本学生支援機構の事業認知状況

高校生

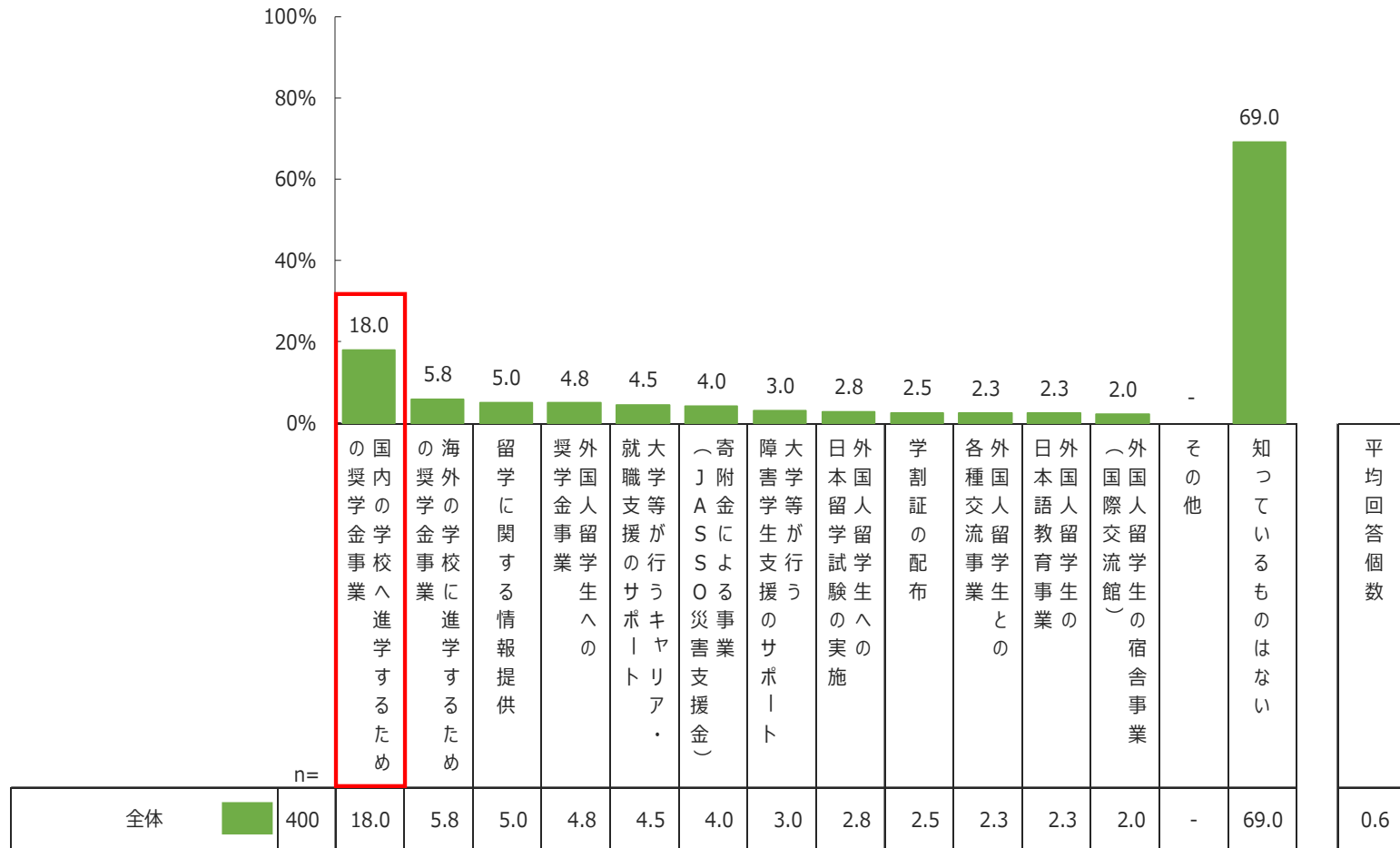
■ JASSOが行う事業のうち、高校生全体では、「国内の学校へ進学するための奨学金事業」を知っているとの回答が13%で最も認知されている。



Q11 日本学生支援機構（JASSO）が行っている下記の事業のうちで、知っているものを全て選んでください。（複数回答）

9 日本学生支援機構の事業認知状況

- JASSOが行う事業のうち、保護者全体では、「国内の学校へ進学するための奨学金事業」を知っているとの回答が18%で最も認知されており、高校生と比べるとやや認知率が高い。



Q11 日本学生支援機構（JASSO）が行っている下記の事業のうちで、知っているものを全て選んでください。（複数回答）

10 「国内の学校へ進学するための奨学金事業」の認知時期

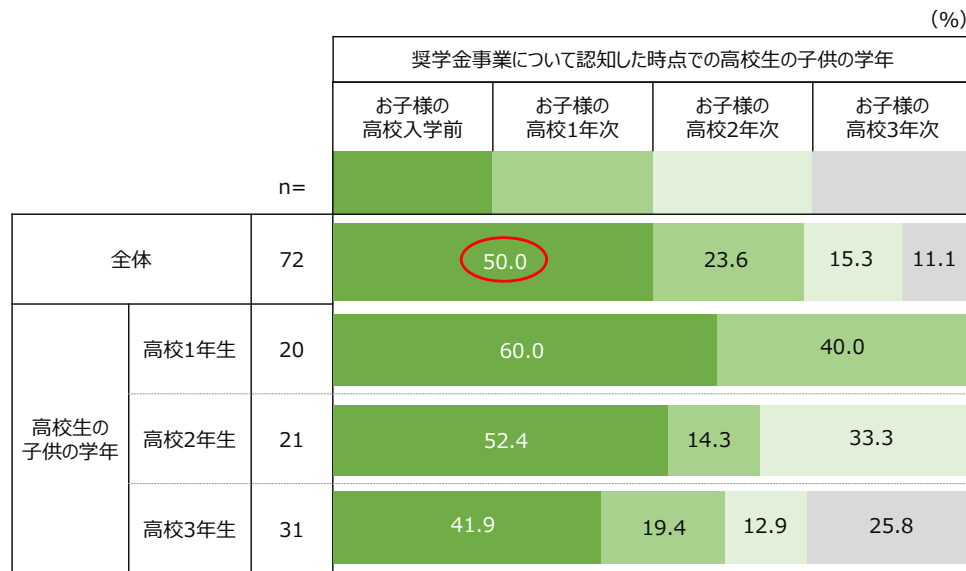
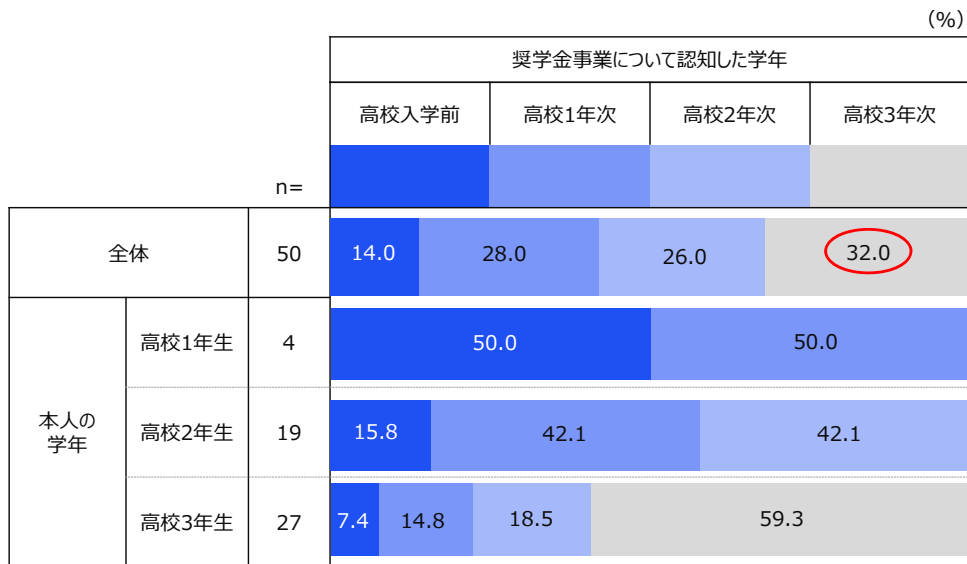
高校生

保護者

- 高校生全体では、「高校3年次」が32%で最も高いが、突出しているわけではない。
- 保護者全体では、「お子様の高校入学前」が50%で最も高い。高校生と比べると、保護者のほうが認知時期が早い傾向がある。
- 保護者の回答については、回答の対象としている高校生が長子でない人もいるため、必ずしも保護者のほうが奨学金について早い時期に認知しているとは断言できない。

高校生

保護者

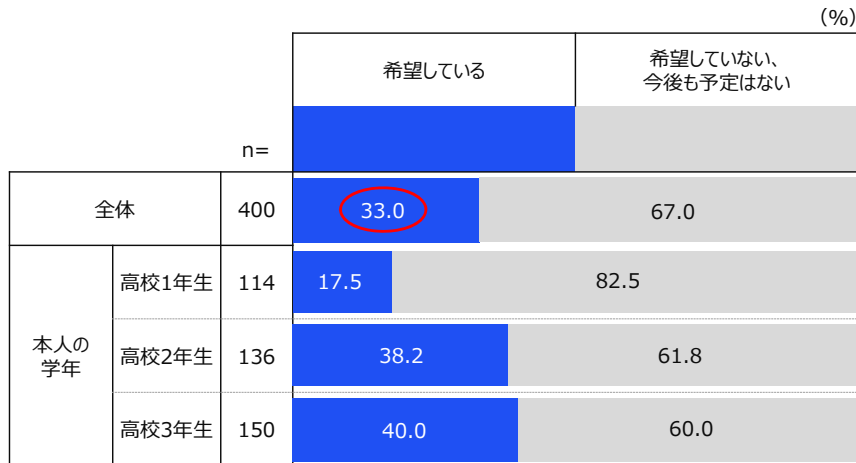


Q12 あなたは日本学生支援機構（JASSO）の「国内の学校へ進学するための奨学金事業」を、いつ知りましたか。（単一回答）
 【Q11：「国内の学校へ進学するための奨学金事業」選択者】

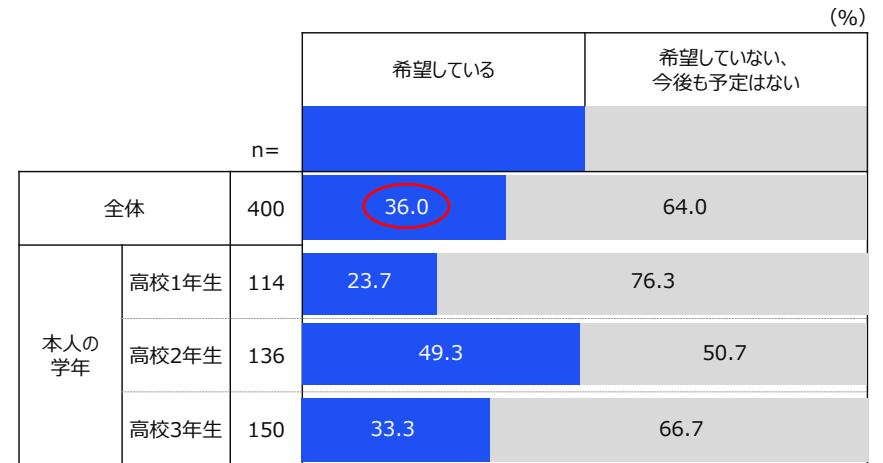
11 日本学生支援機構の奨学金利用意向

- 高校生全体では、「貸与奨学金」の利用を希望している人が33%。
- 「給付奨学金」の利用を希望している人が36%。
- 本調査は奨学金の予約申込み終了後に実施しており、高校3年生の奨学金利用意向については実態に近いものと推測される。
また、高校1年生と比較して高校2年生の利用を希望する割合が高い傾向にあり、実際に利用について検討を始めているものと推測されるため、高校2年生に対する周知も効果的であると考えられる。

「①貸与奨学金について」の利用



「②給付奨学金について」の利用



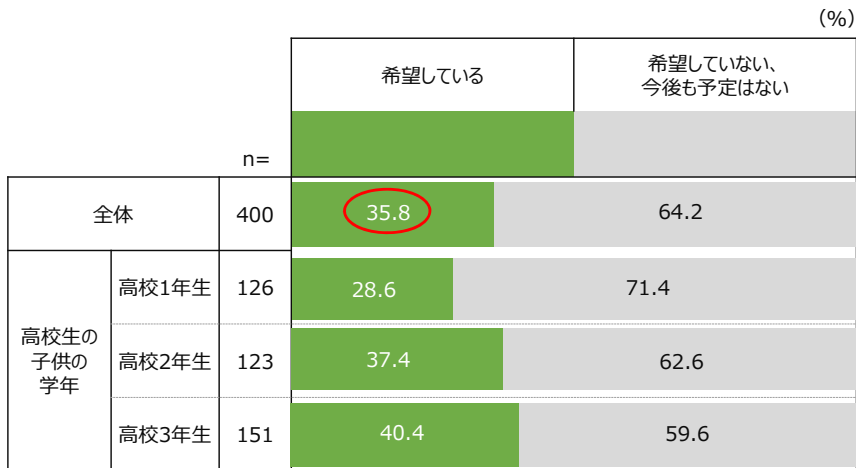
Q13_1 あなた（または、あなたのお子様）は日本学生支援機構（JASSO）の奨学金の利用を希望していますか。①貸与奨学金について ②給付奨学金についてそれぞれあてはまるものをお選びください。／①貸与奨学金について（単一回答）

Q13_2 あなた（または、あなたのお子様）は日本学生支援機構（JASSO）の奨学金の利用を希望していますか。①貸与奨学金について ②給付奨学金についてそれぞれあてはまるものをお選びください。／②給付奨学金について（単一回答）

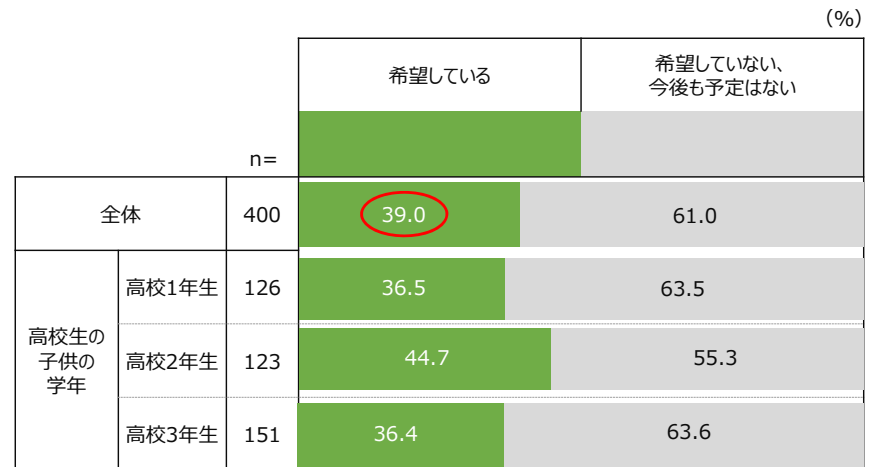
11 日本学生支援機構の奨学金利用意向

- 保護者全体では、「貸与奨学金」の利用を希望している人が36%。
- 「給付奨学金」の利用を希望している人が39%。
- 高校生の結果と比較して、子供が高校1年生時点での奨学金の利用を希望する割合が高く、保護者においては将来の具体的な学費の準備を踏まえ子供の学年が早い時期から金銭面の関心が高いことがわかる。

「①貸与奨学金について」の利用



「②給付奨学金について」の利用

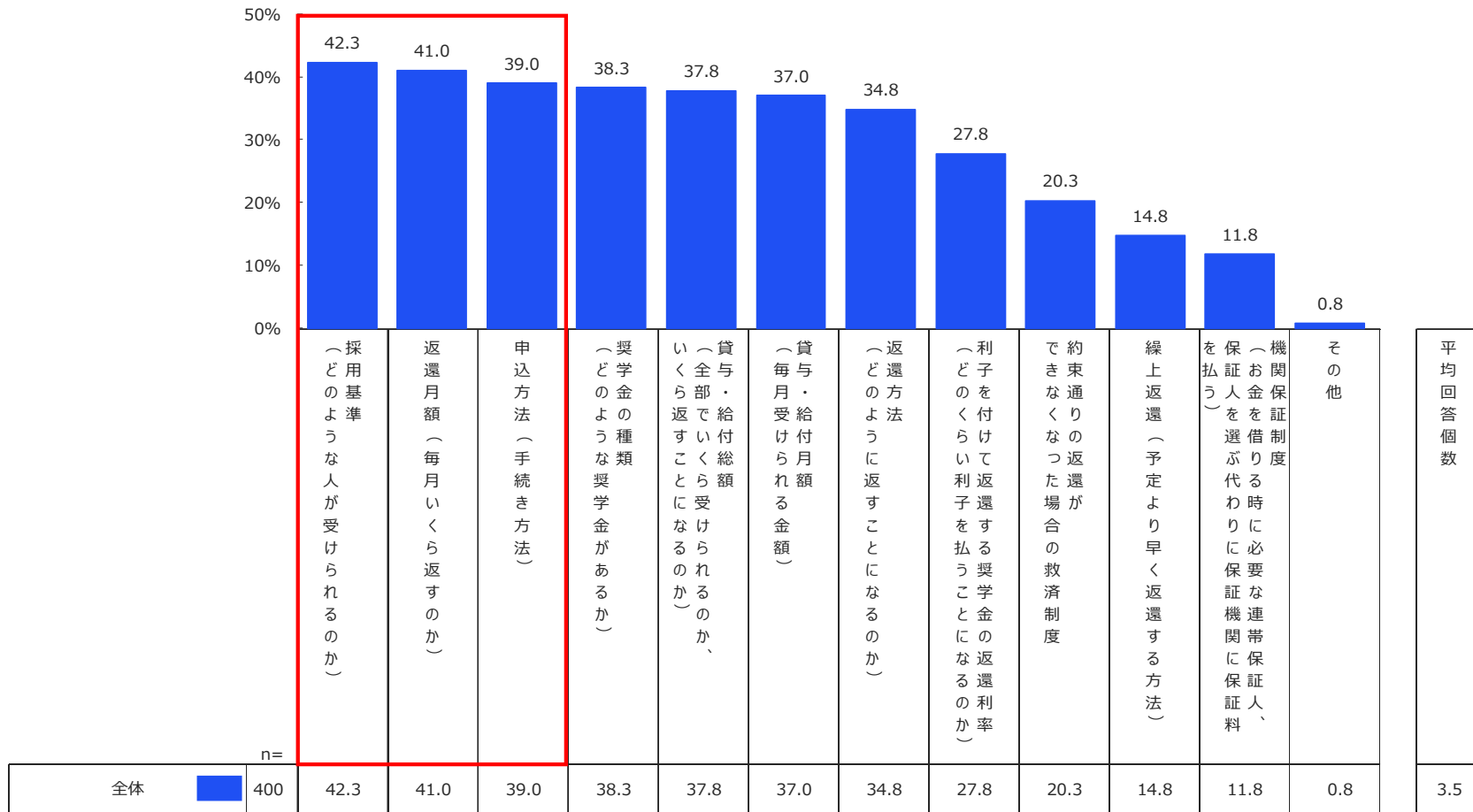


Q13_1 あなた（または、あなたのお子様）は日本学生支援機構（JASSO）の奨学金の利用を希望していますか。①貸与奨学金について ②給付奨学金についてそれぞれあてはまるものをお選びください。／①貸与奨学金について（単一回答）

Q13_2 あなた（または、あなたのお子様）は日本学生支援機構（JASSO）の奨学金の利用を希望していますか。①貸与奨学金について ②給付奨学金についてそれぞれあてはまるものをお選びください。／②給付奨学金について（単一回答）

12 奨学金利用の際に知りたい情報

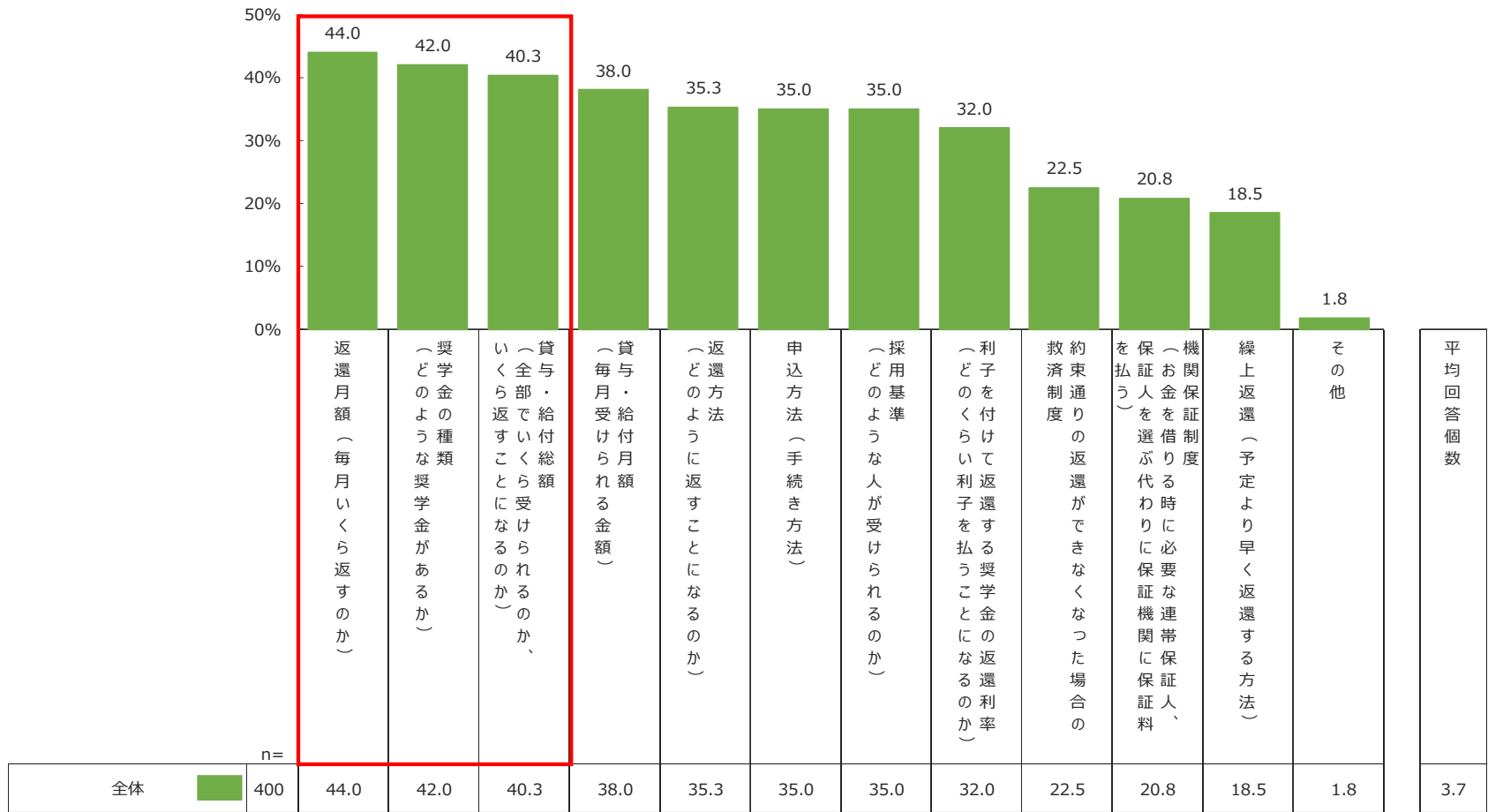
- 奨学金の利用を考えるにあたり知りたい情報について、高校生全体では、「採用基準」が42%で最も高い。「返還月額」(41%)、「申込方法」(39%)が続くが、その他の項目もスコアが高く、実際の申込を考えるにあたり、返還も含め、情報全般に関心があることがわかる。



Q14 あなた (または、あなたのお子様) が奨学金の利用を考える際に、知りたい情報はなんですか。知りたい情報を全て選んでください。(複数回答)

12 奨学金利用の際に知りたい情報

- 奨学金の利用を考えるにあたり知りたい情報について、保護者全体では、「返還月額」が44%で最も高い。「奨学金の種類」(42%)、「貸与・給付総額」(40%)が続くが、その他の項目もスコアが高く、実際の申込を考えるにあたり、返還を重視し、情報全般に関心があることがわかる。
- 高校生に比べると具体的な学費の準備を踏まえ金銭面の関心が高いことがわかる。



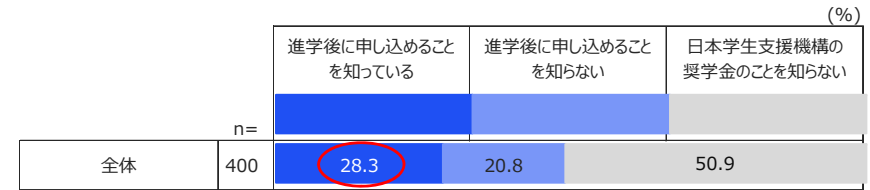
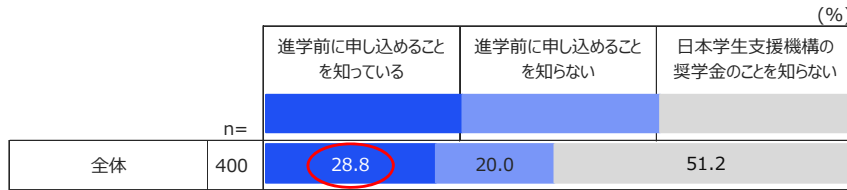
Q14 あなた (または、あなたのお子様) が奨学金の利用を考える際に、知りたい情報はなんですか。知りたい情報を全て選んでください。(複数回答)

13 日本学生支援機構の奨学金認知状況

- 高校生全体では、奨学金について「進学前に申し込めることを知っている」のは29%。「進学後に申し込めることを知っている」のは28%。
- 返さなくてもよい給付奨学金と返す必要がある貸与奨学金について、「どちらのことも知っている」のは34%。
- 採用時、家計の基準と学業の基準があることについて、「家計の基準も学業の基準も知っていた」のは33%。

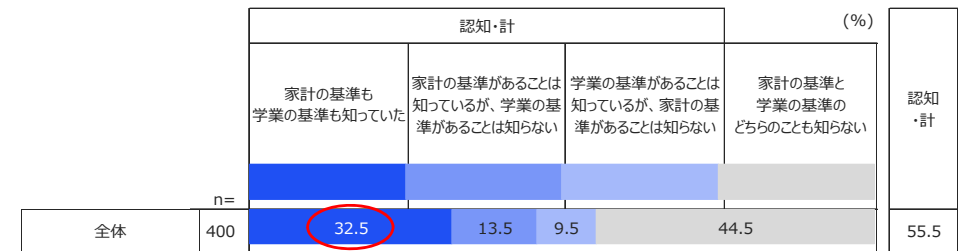
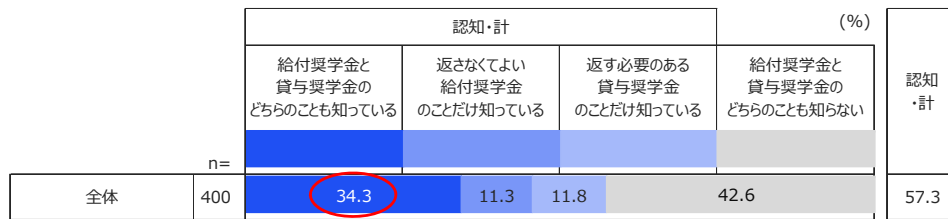
日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、大学等へ進学する前に申し込めること（Q15）

日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、大学等へ進学後に申し込めること（Q16）



返さなくてもよい給付奨学金と返す必要のある貸与奨学金があること（Q17）

採用時、家計の基準と学業の基準があること（Q18）



- Q15 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、大学等へ進学する前に申し込めることを知っていますか。（単一回答）
- Q16 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、大学等へ進学後に申し込めることを知っていますか。（単一回答）
- Q17 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金には、返さなくてもよい給付奨学金と返す必要のある貸与奨学金があることを知っていますか。（単一回答）
- Q18 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金に採用されるには、主に、家計の基準と学業の基準があることを知っていますか。（単一回答）

13 日本学生支援機構の奨学金認知状況

- 保護者全体では、奨学金について、「進学前に申し込めることを知っている」のは33%。「進学後に申し込めることを知っている」のは31%。
- 返さなくてもよい給付奨学金と返す必要がある貸与奨学金について、「どちらのことも知っている」のは34%。
- 採用時、家計の基準と学業の基準があることについて、「家計の基準も学業の基準も知っていた」のは31%。

日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、大学等へ進学する前に申し込めること（Q15）

日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、大学等へ進学後に申し込めること（Q16）

		進学前に申し込めることを知っている			進学前に申し込めることを知らない			日本学生支援機構の奨学金のことを知らない		
		知っている			知らない			知らない		
全体	n=400	33.0	25.0	42.0						

		進学後に申し込めることを知っている			進学後に申し込めることを知らない			日本学生支援機構の奨学金のことを知らない		
		知っている			知らない			知らない		
全体	n=400	31.0	25.0	44.0						

返さなくてもよい給付奨学金と返す必要のある貸与奨学金があること（Q17）

採用時、家計の基準と学業の基準があること（Q18）

		認知・計				認知・計			
		給付奨学金と貸与奨学金のどちらのことも知っている		返さなくてもよい給付奨学金の只知道っている		返す必要のある貸与奨学金の只知道っている		給付奨学金と貸与奨学金のどちらのことも知らない	
全体	n=400	34.0	7.3	14.5	44.2	55.8			

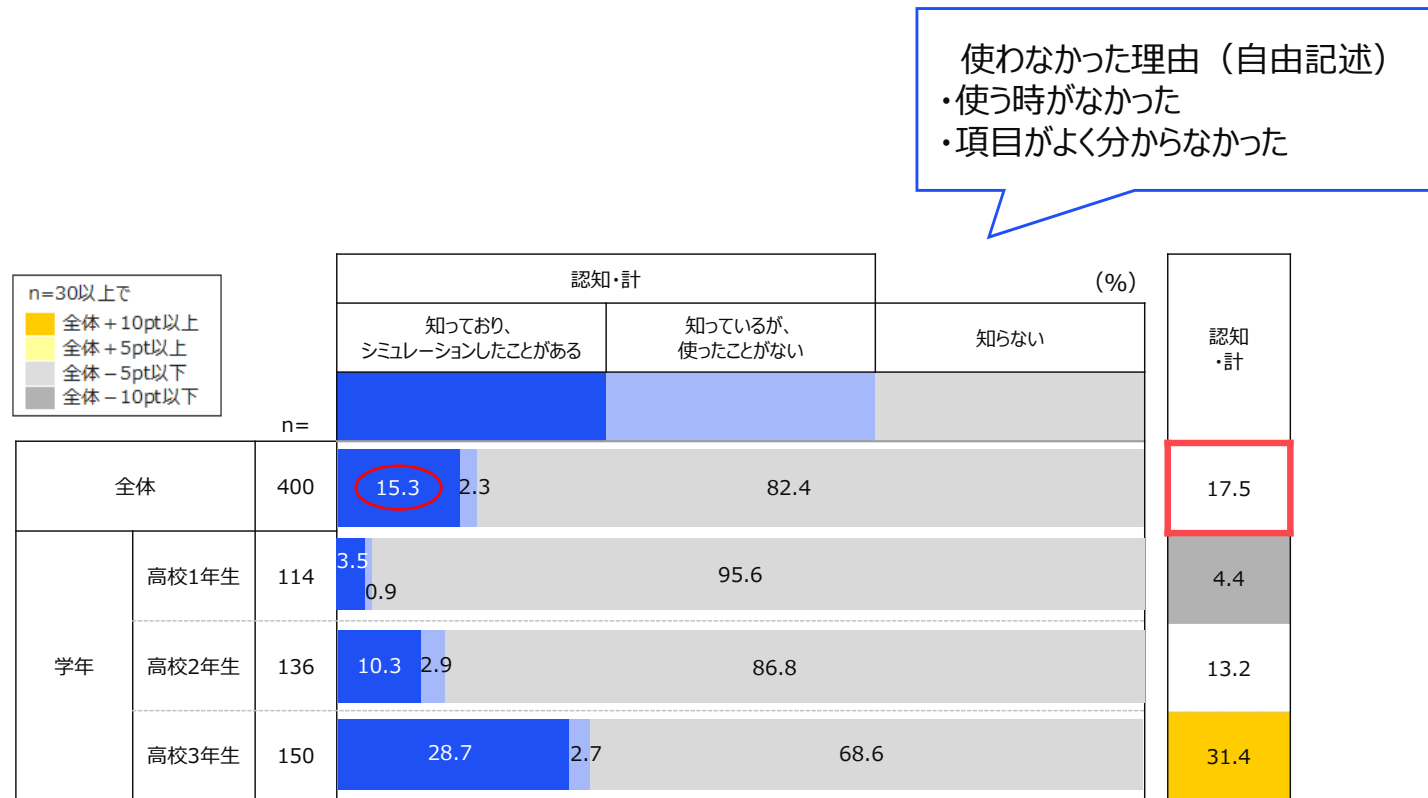
		認知・計				認知・計			
		家計の基準も学業の基準も知っていた		家計の基準があることは知っているが、学業の基準があることは知らない		学業の基準があることは知っているが、家計の基準があることは知らない		家計の基準と学業の基準のどちらのことも知らない	
全体	n=400	31.0	12.0	6.8	50.2	49.8			

- Q15 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、大学等へ進学する前に申し込めることを知っていますか。（単一回答）
- Q16 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、大学等へ進学後に申し込めることを知っていますか。（単一回答）
- Q17 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金には、返さなくてもよい給付奨学金と返す必要のある貸与奨学金があることを知っていますか。（単一回答）
- Q18 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金に採用されるには、主に、家計の基準と学業の基準があることを知っていますか。（単一回答）

14 「進学資金シミュレーター」の認知状況

- 高校生全体では、「進学資金シミュレーター」を認知しているのは18%。実際にシミュレーションしたことがあるのは15%。
- 高校3年生では実際にシミュレーションしたことがあるのは29%と高くなっており、奨学金の申込時に活用されていることが推測される。

「進学資金シミュレーター」の認知状況 (Q19)



Q19 日本学生支援機構 (JASSO) の奨学金に申し込むにあたり、あらかじめ家計の基準に該当するか調べるができる「進学資金シミュレーター」がJASSOのホームページに公開されています。「進学資金シミュレーター」について知っていますか。(単一回答)

14 「進学資金シミュレーター」の認知状況

- 保護者全体では、「進学資金シミュレーター」を認知しているのは18%。実際にシミュレーションしたことがあるのは16%。
- 高校3年生の子を持つ保護者においては、実際にシミュレーションしたことがある人は20%であり、奨学金の申込時に活用されていることが推測される。

「進学資金シミュレーター」の認知状況 (Q19)

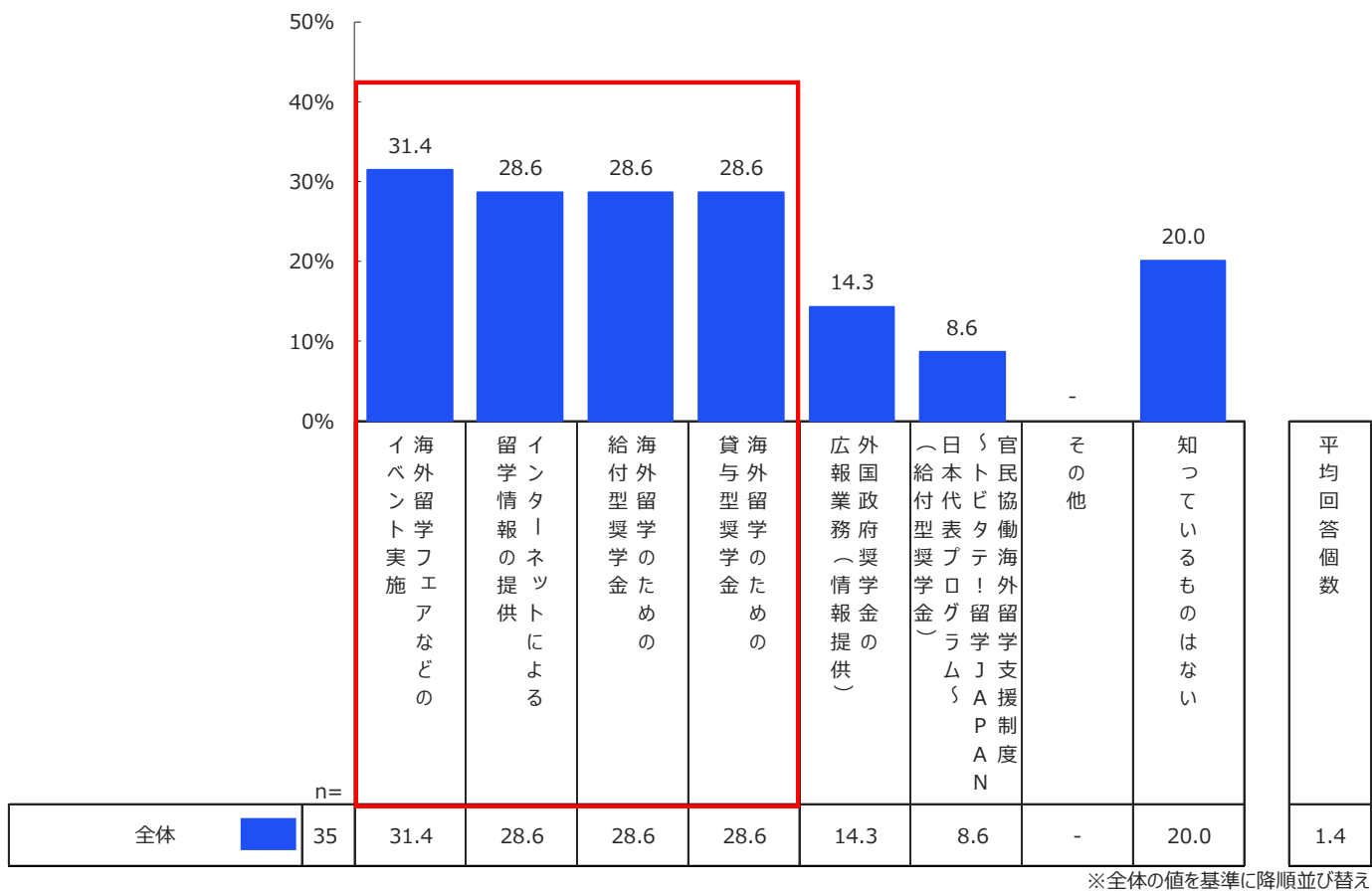
使わなかった理由 (自由記述)
・所得制限に引っ掛かりそう

		認知・計			(%)	認知・計	
		知っているが、シミュレーションしたことがある	知っているが、使ったことがない	知らない			
n=30以上で		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: #FFD700; border: 1px solid black;"></div> 全体 + 10pt以上 <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: #FFD700; border: 1px solid black;"></div> 全体 + 5pt以上 <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: #A9A9A9; border: 1px solid black;"></div> 全体 - 5pt以下 <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: #808080; border: 1px solid black;"></div> 全体 - 10pt以下 </div>					
全体	n=	16.0	1.8	82.2		17.8	
高校生の 子供の 学年	高校1年生	12.7	3.2	84.1		15.9	
	高校2年生	14.6		85.4		14.6	
	高校3年生	19.9	2.0	78.1		21.9	

Q19 日本学生支援機構 (JASSO) の奨学金に申し込むにあたり、あらかじめ家計の基準に該当するか調べることができる「進学資金シミュレーター」がJASSOのホームページに公開されています。「進学資金シミュレーター」について知っていますか。(単一回答)

15 「海外留学支援事業」の認知状況

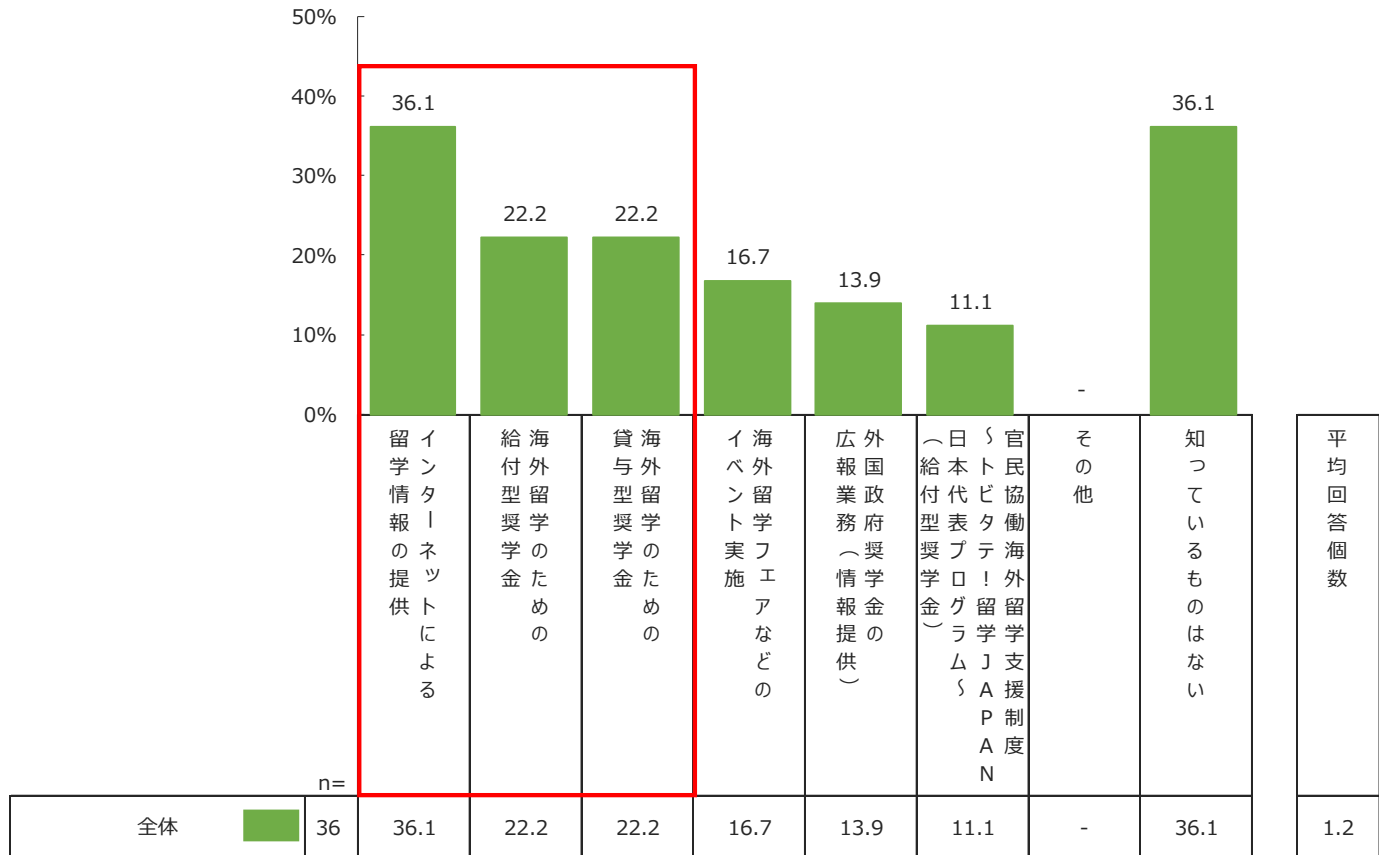
- 海外留学支援事業について、高校生全体では、「海外留学フェアなどのイベント実施」の認知率が31%で最も高い。次いで「インターネットによる留学情報の提供」、「海外留学のための給付型奨学金」、「海外留学のための貸与型奨学金」が29%で同率。



Q20 日本学生支援機構（JASSO）の「海外留学支援事業」で、知っているものを全て選んでください。（複数回答）
 【Q11：「海外の学校に進学するための奨学金事業」、「留学に関する情報提供」選択者】

15 「海外留学支援事業」の認知状況

- 海外留学支援授業について、保護者全体では、「インターネットによる留学情報の提供」の認知率が36%で最も高い。次いで「海外留学のための給付型奨学金」、「海外留学のための貸与型奨学金」が22%で同率。
- 高校生と比べると「海外留学フェアなどのイベント実施」についての認知率が低く、イベントの参加者（来場者）を増やすためには保護者に向けた周知も重要であると考えられる。



※全体の値を基準に降順並び替え

Q20 日本学生支援機構（JASSO）の「海外留学支援事業」で、知っているものを全て選んでください。（複数回答）
 【Q11：「海外の学校に進学するための奨学金事業」、「留学に関する情報提供」選択者】

16 留学経験別留学意向

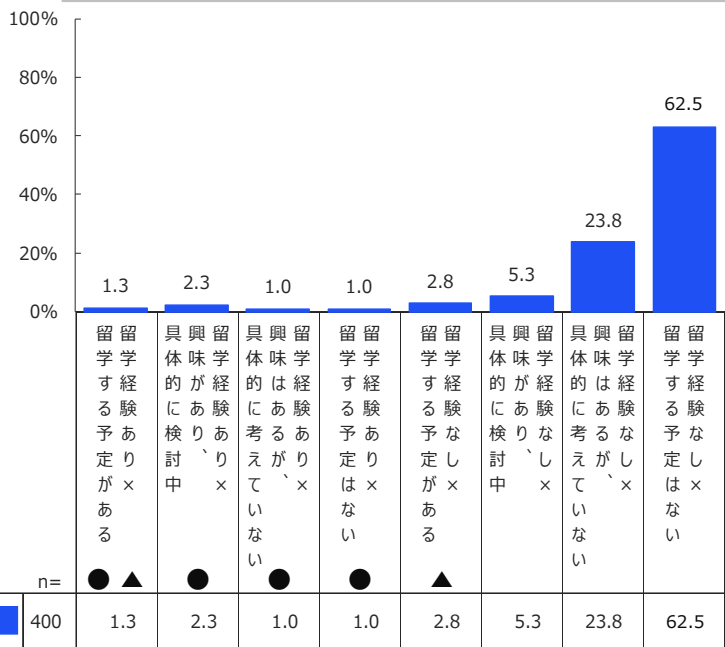
高校生

保護者

- 高校生全体では、高校在学中もしくは高校入学までに留学経験がある人は6%、留学予定がある人は4%。
- 保護者全体では、高校在学中もしくは高校入学までに子の留学経験がある人は4%、子の留学予定がある人は3%。

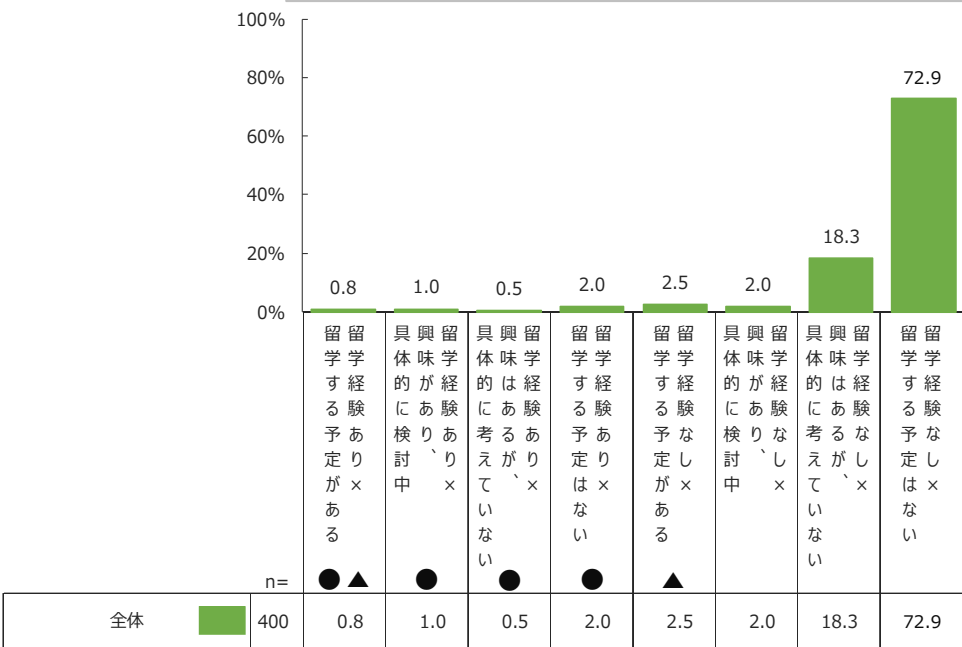
高校生

● 高校在学中もしくは高校入学までに留学経験あり・計：6%
▲ 留学予定あり・計：4%



保護者

● 高校在学中もしくは高校入学までに留学経験あり・計：4%
▲ 留学予定あり・計：3%

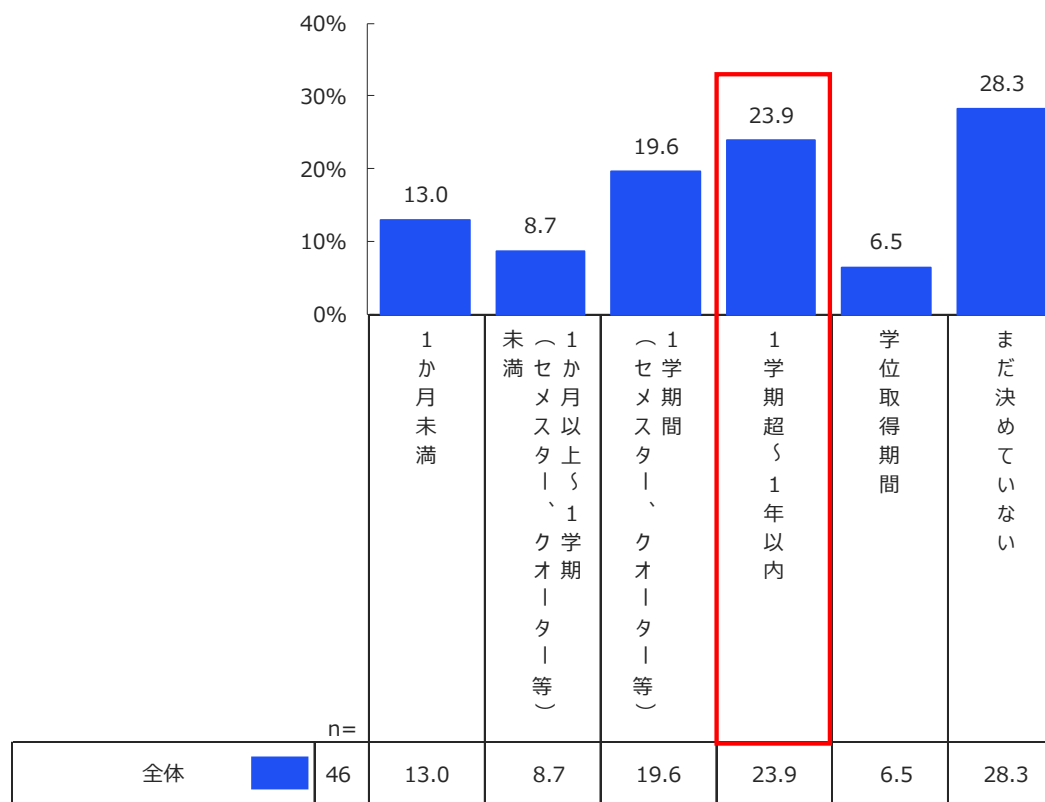


Q21 あなたは（または、あなたのお子様）は、これまでに留学経験がありますか。（単一回答）
Q21A あなたは（または、あなたのお子様）は、高校卒業後又は進学後に留学をする予定がありますか。（単一回答）

17 海外留学期間の予定

高校生

- 高校生全体では、「まだ決めていない」との回答以外で見ると、「1学期超～1年以内」が24%で最も高く、「1学期間（セメスター、クォーター等）」（20%）、「1か月未満」（13%）と続く。

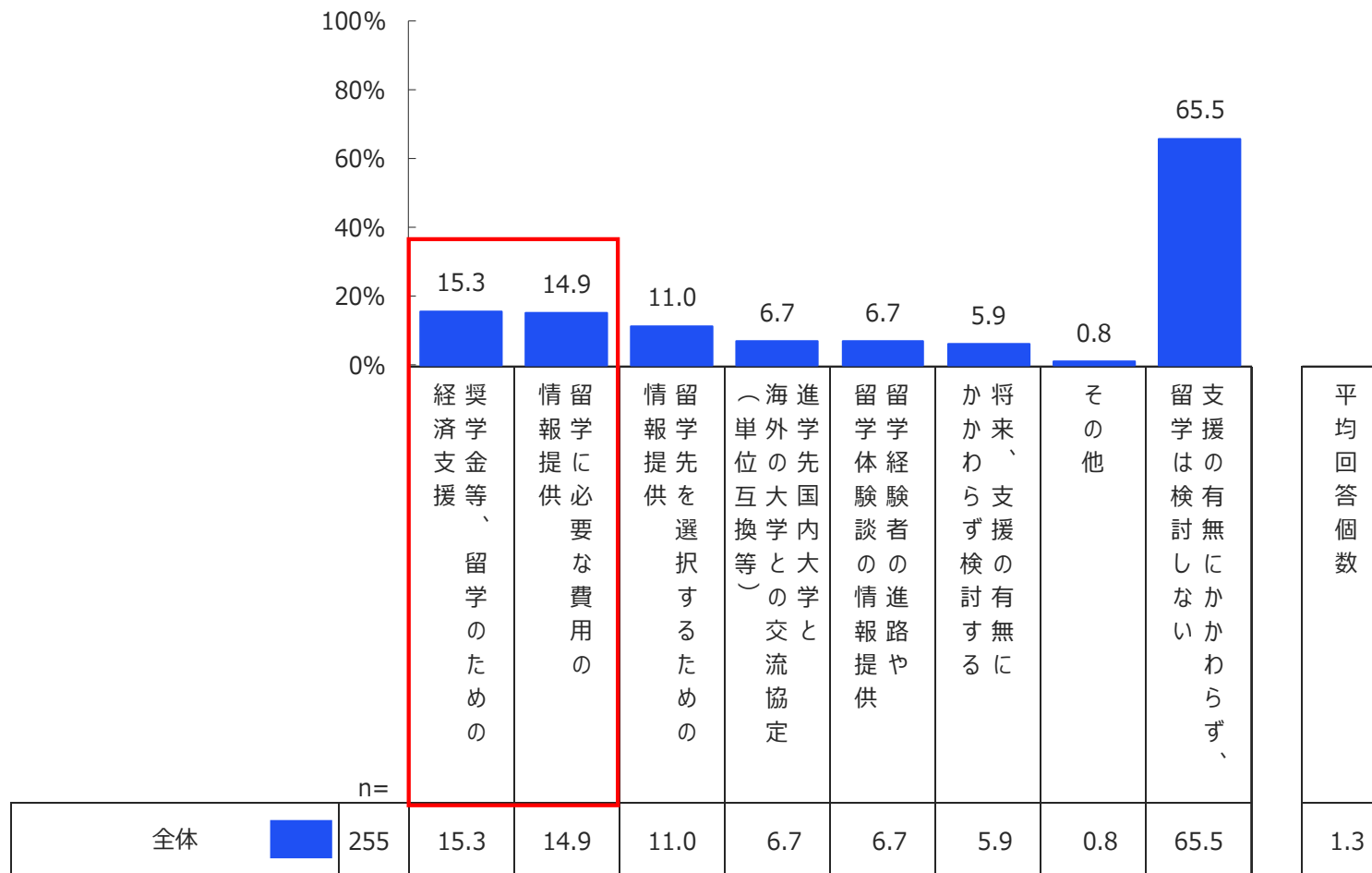


Q22 あなた（または、あなたのお子様）は、高校卒業後又は進学後に、どの程度の期間の留学を予定していますか。（単一回答）
 【Q21A：「留学する予定がある」、「興味があり、具体的に検討中」選択者】

18 海外留学検討の際に必要な支援内容

高校生

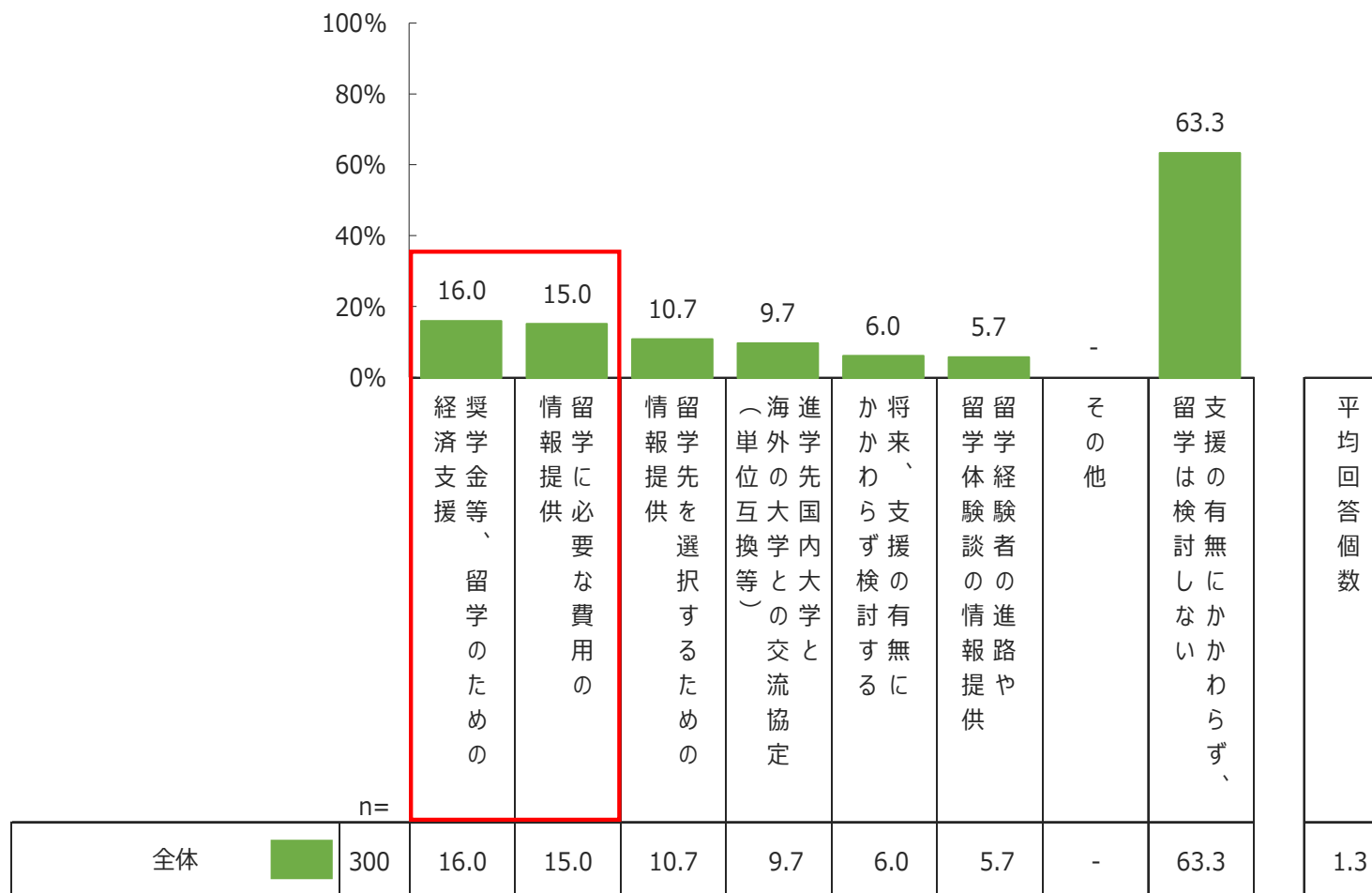
- 高校生全体では、「支援の有無にかかわらず、留学は検討しない」との回答以外で見ると、「奨学金等、留学のための経済支援」（15%）、「留学に必要な費用の情報提供」（14.9%）が同率で上位。



Q23 あなた（または、あなたのお子様）は、高校卒業後又は進学後にどのような支援があれば、留学（1週間～1年以内の短期留学を含む）を検討しますか？（複数回答）
【Q21A：「留学する予定はない」選択者】

18 海外留学検討の際に必要な支援内容

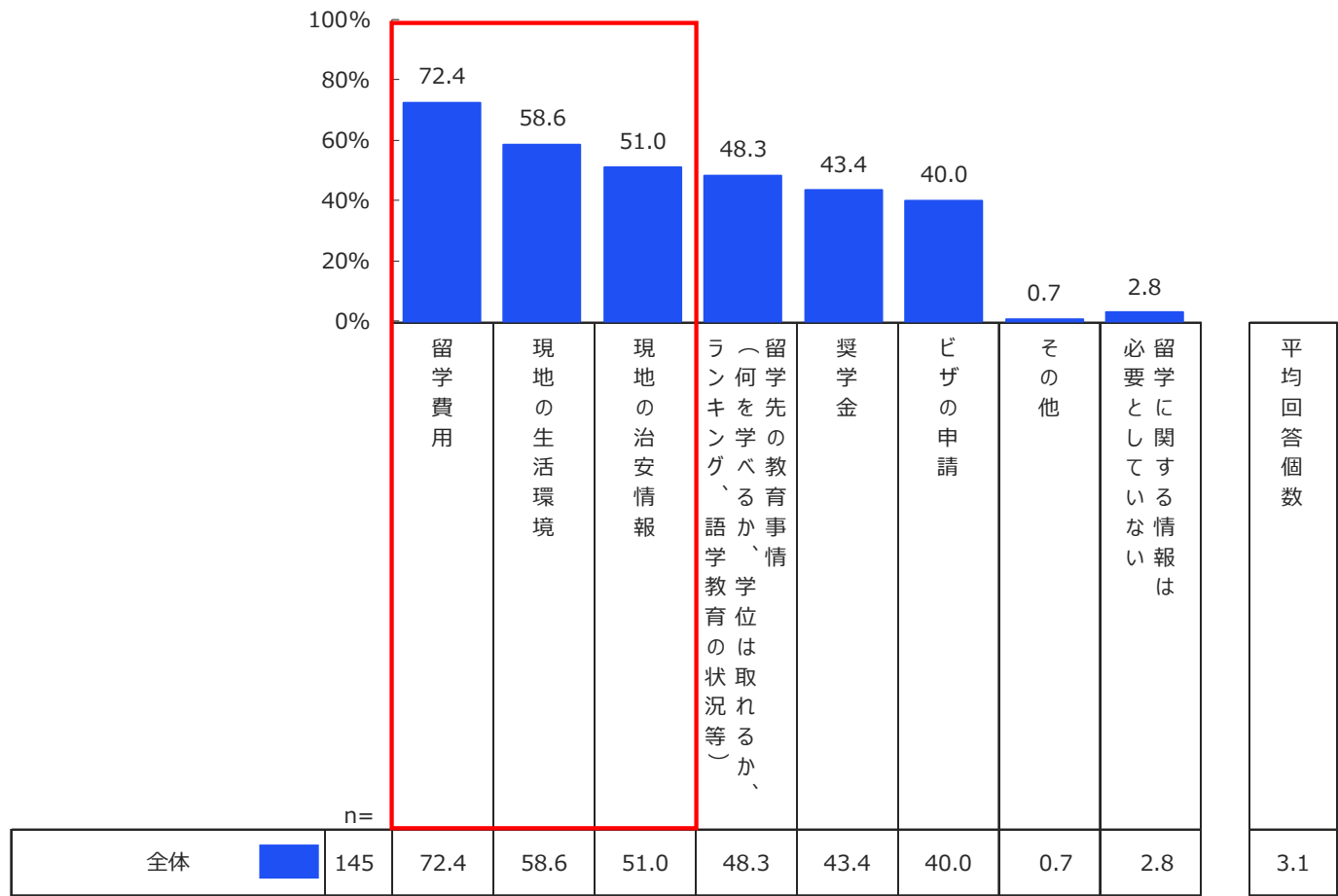
- 保護者全体では、「支援の有無にかかわらず、留学は検討しない」との回答以外で見ると、「奨学金等、留学のための経済支援」（16%）、「留学に必要な費用の情報提供」（15%）が上位。高校生、保護者とも金銭面の支援や情報が重要と考えていることが分かる。



Q23 あなた（または、あなたのお子様）は、高校卒業後又は進学後にどのような支援があれば、留学（1週間～1年以内の短期留学を含む）を検討しますか？（複数回答）
【Q21A：「留学する予定はない」選択者】

19 海外留学について知りたい情報

- 高校生全体では、「留学費用」が72%で最も高く、「現地の生活環境」(59%)、「現地の治安情報」(51%)と続く。
- 「留学先の教育事情」より費用や留学先の環境についての情報を得たいと考えていることが分かる。

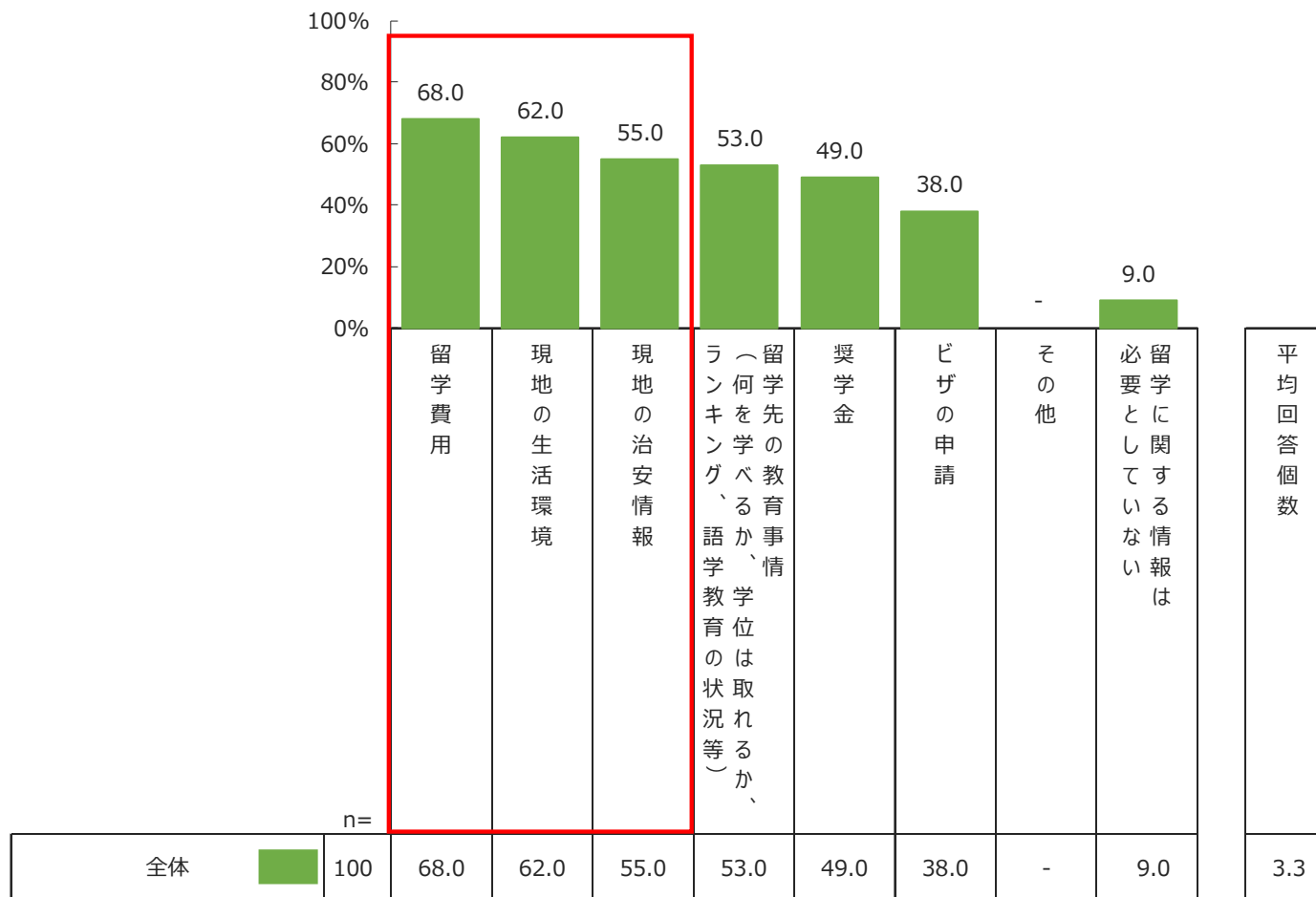


Q24 海外留学について、どのような情報を知りたいですか。あてはまるものを全て選んでください。(複数回答)
 【Q21A：「留学する予定がある」、「興味があり、具体的に検討中」、「興味はあるが、具体的に考えていない」選択者】

19 海外留学について知りたい情報

保護者

- 保護者全体では、「留学費用」が68%で最も高く、「現地の生活環境」(62%)、「現地の治安情報」(55%)と続く。
- 高校生と同じく「留学先の教育事情」より費用や留学先の環境についての情報を得たいと考えていることが分かる。

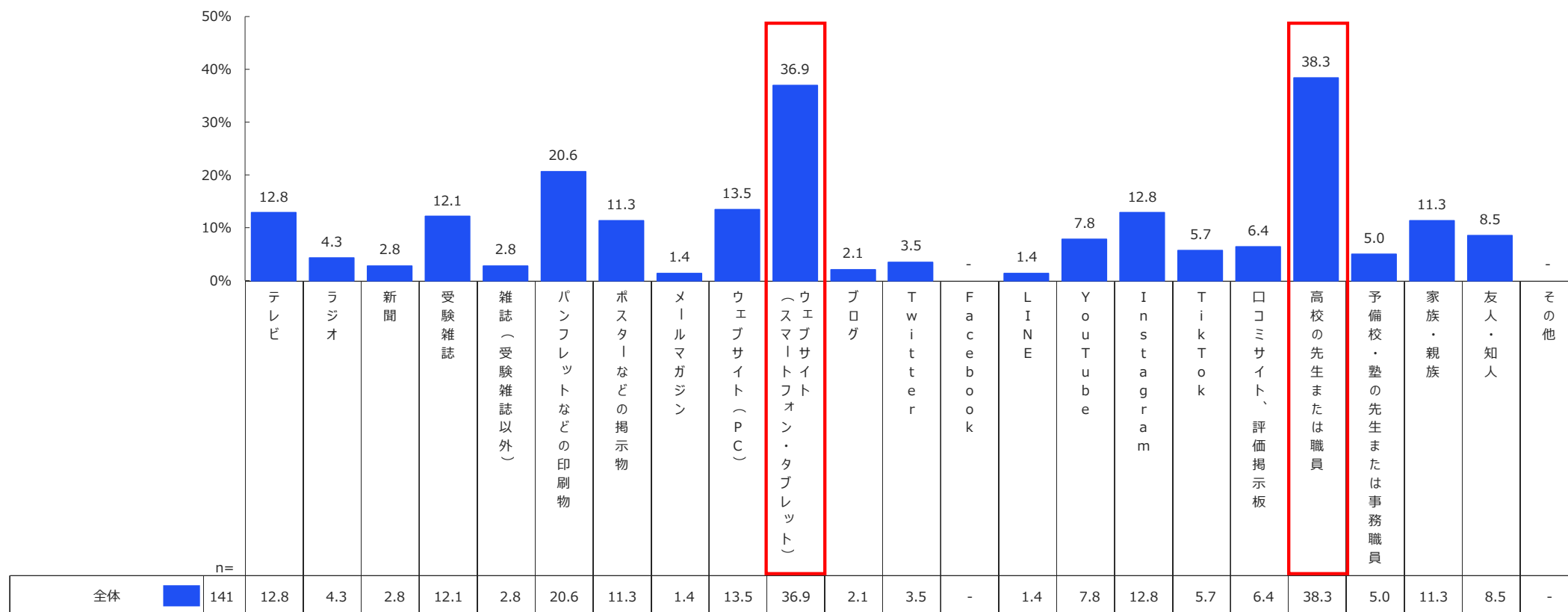


Q24 海外留学について、どのような情報を知りたいですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答）
 【Q21A：「留学する予定がある」、「興味があり、具体的に検討中」、「興味はあるが、具体的に考えていない」選択者】

20 海外留学の情報収集経路

高校生

- 高校生全体では、「高校の先生または職員」が38%と最も高く、「ウェブサイト（スマートフォン・タブレット）」（37%）が続く。海外留学ということもあってか、国内進学（P18）にくらべると「高校の先生または職員」から情報を収集するだけでなく、ウェブサイトでも調べている様子が見られる。



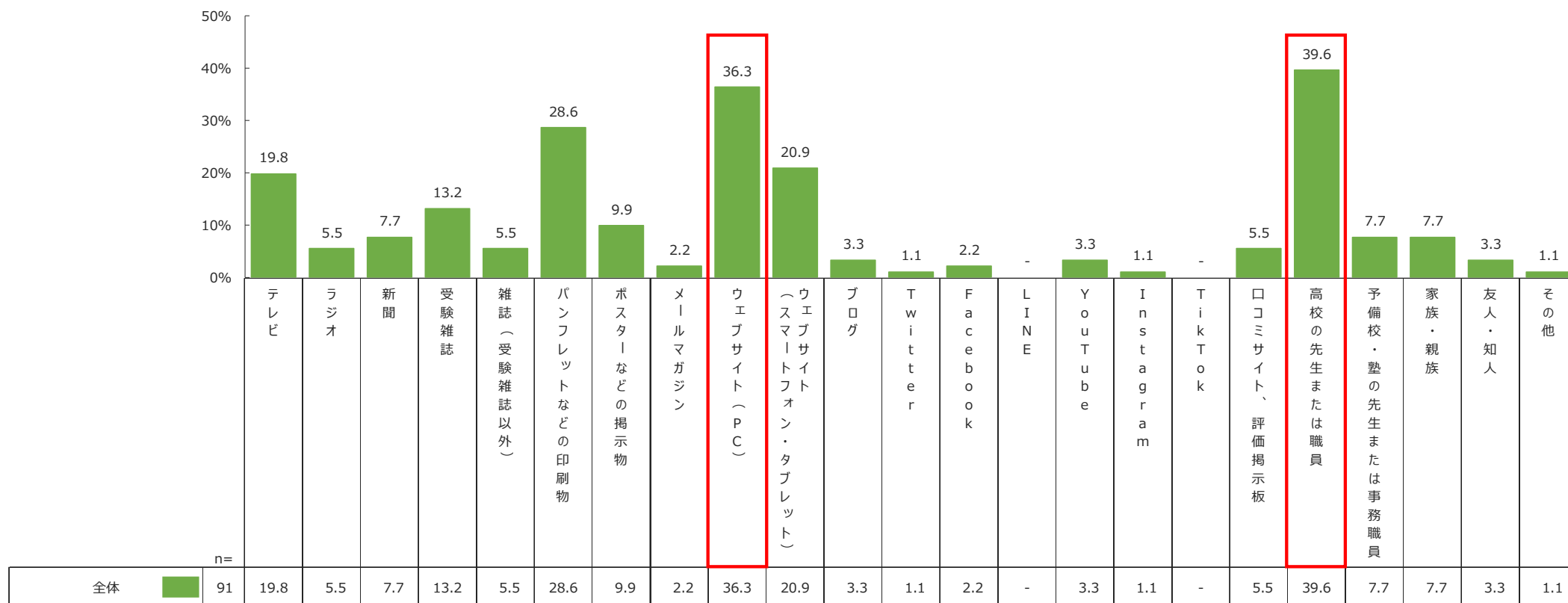
Q25 あなたは海外留学に関する情報（国・地域の情報、学校の施設・設備、学部・学科、費用、留学後の進路・就職など）を、どこから入手しますか（または入手しましたか）。主なものを3つまで選んでください。（複数回答）

【Q24：「留学先の教育事情（何を学べるか、学位は取れるか、ランキング、語学教育の状況等）」、「現地の生活環境」、「留学費用」、「奨学金」、「ビザの申請」、「現地の治安情報」、「その他」選択者】

20 海外留学の情報収集経路

保護者

- 保護者全体では、「高校の先生または職員」が40%と最も高く、「ウェブサイト（PC）」（36%）が続く。海外留学ということもあってか、国内進学（P19）にくらべると「高校の先生または職員」から情報を収集するだけでなく、ウェブサイトでも調べている様子は、高校生と同様な傾向。



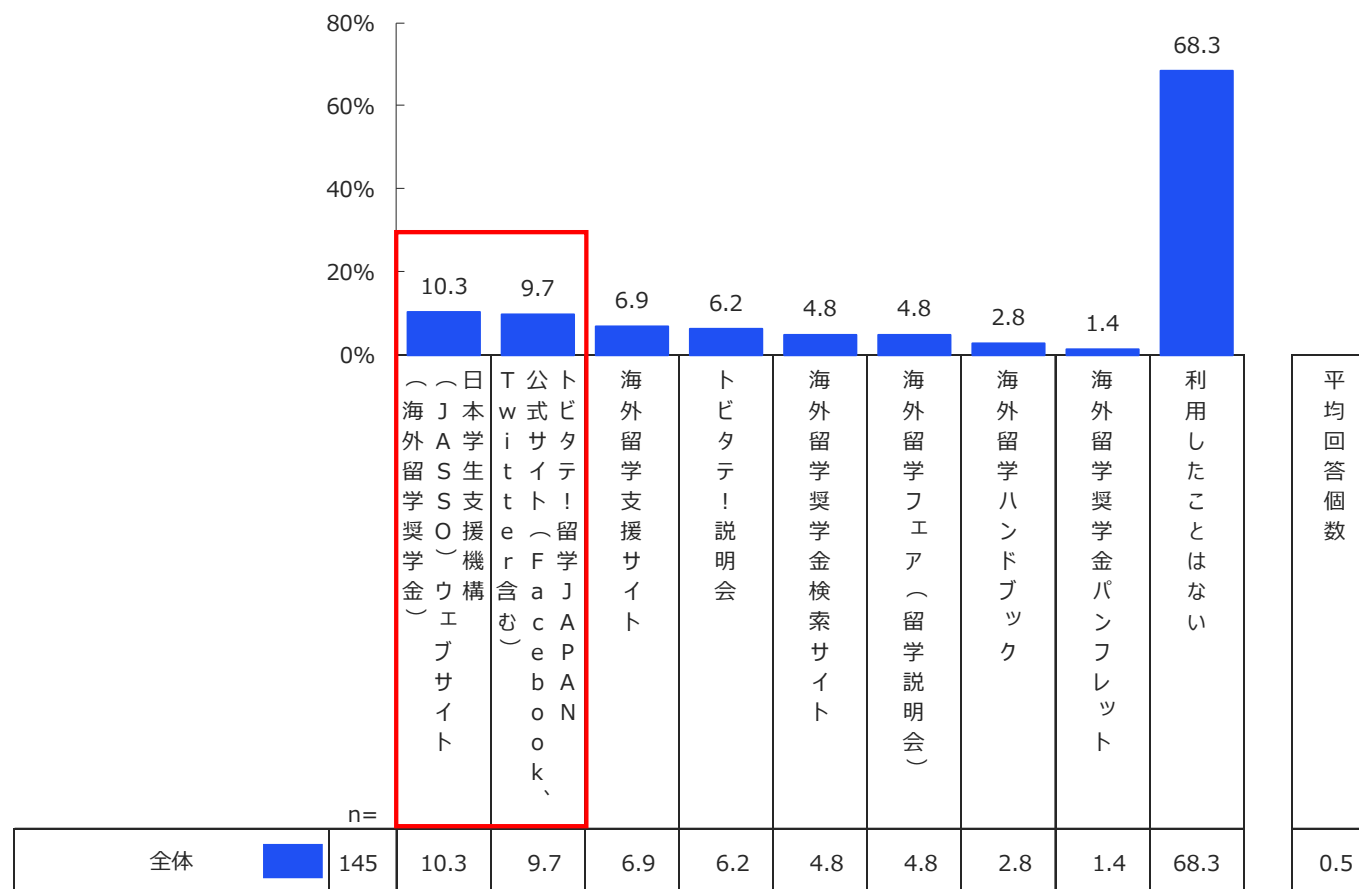
Q25 あなたは海外留学に関する情報（国・地域の情報、学校の施設・設備、学部・学科、費用、留学後の進路・就職など）を、どこから入手しますか（または入手しましたか）。
 主なものを3つまで選んでください。（複数回答）

【Q24：「留学先の教育事情（何を学べるか、学位は取れるか、ランキング、語学教育の状況等）」、「現地の生活環境」、「留学費用」、「奨学金」、「ビザの申請」、「現地の治安情報」、「その他」選択者】

21 日本学生支援機構の海外留学向け情報提供ツールの利用状況

高校生

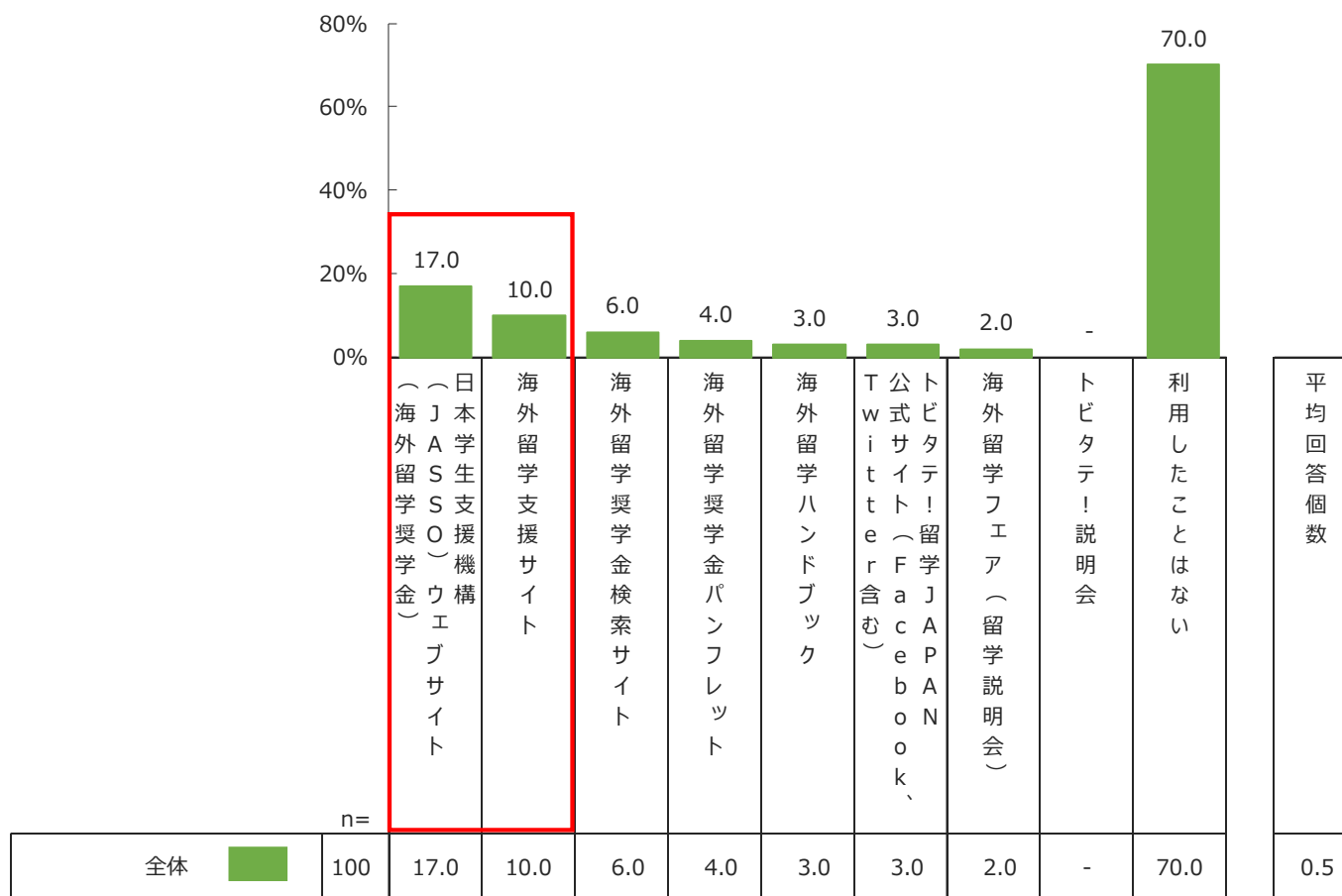
- 高校生全体では、情報提供ツールを「利用したことはない」との回答以外で見ると、「日本学生支援機構（JASSO）ウェブサイト（海外留学奨学金）」（10%）、「トビタテ！留学JAPAN公式サイト」（9.7%）が上位。



Q26 海外留学の情報収集のため、日本学生支援機構（JASSO）の情報提供ツールで利用したことがあるものを全て選んでください。（複数回答）
 【Q21A：「留学する予定がある」、「興味があり、具体的に検討中」、「興味はあるが、具体的に考えていない」選択者】

21 日本学生支援機構の海外留学向け情報提供ツールの利用状況

- 保護者全体では、情報提供ツールを「利用したことはない」との回答以外で見ると、「日本学生支援機構（JASSO）ウェブサイト（海外留学奨学金）」（17%）、「海外留学支援サイト」（10%）が上位。

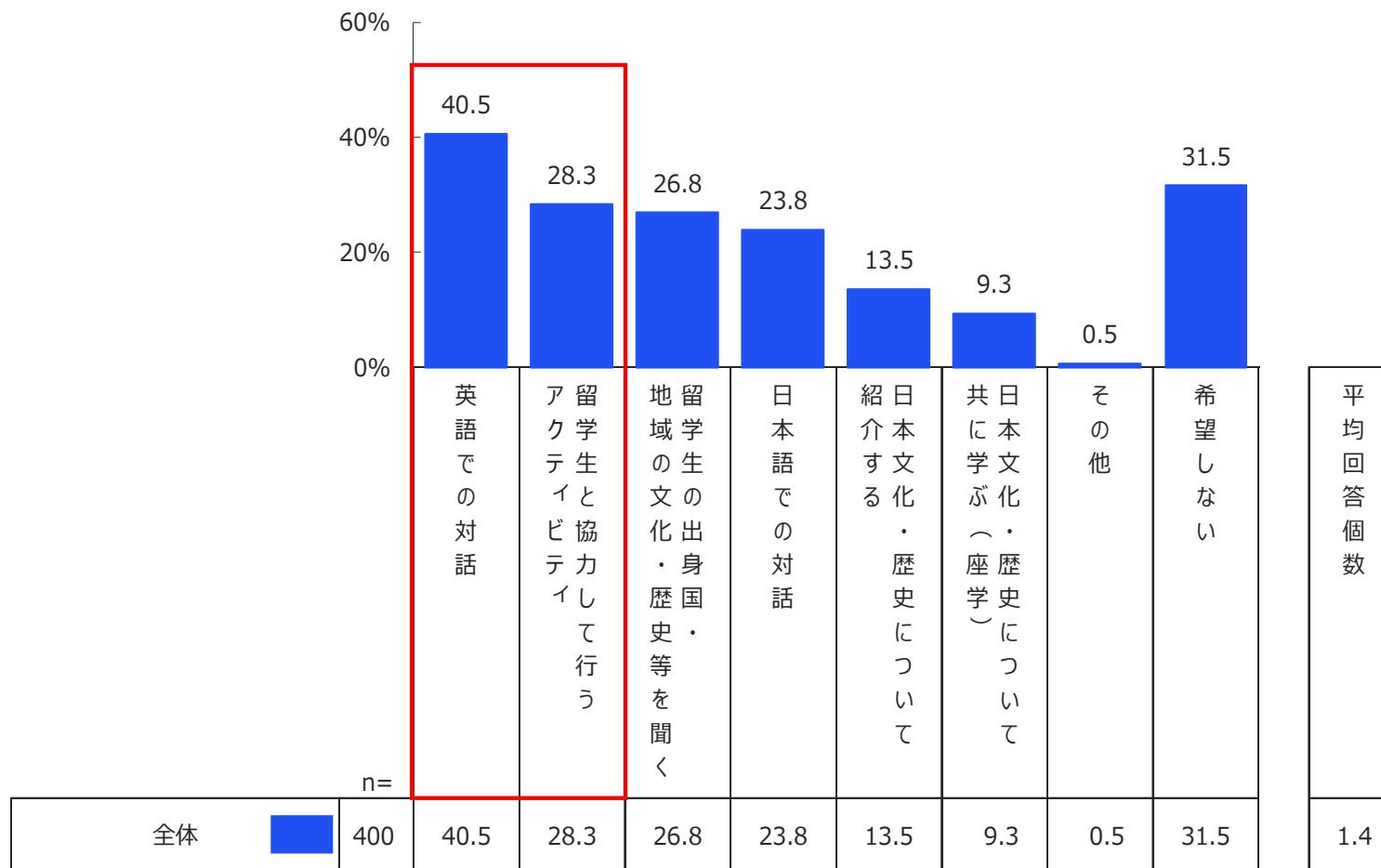


Q26 海外留学の情報収集のため、日本学生支援機構（JASSO）の情報提供ツールで利用したことがあるものを全て選んでください。（複数回答）
 【Q21A：「留学する予定がある」、「興味があり、具体的に検討中」、「興味はあるが、具体的に考えていない」選択者】

22 外国人留学生との交流

高校生

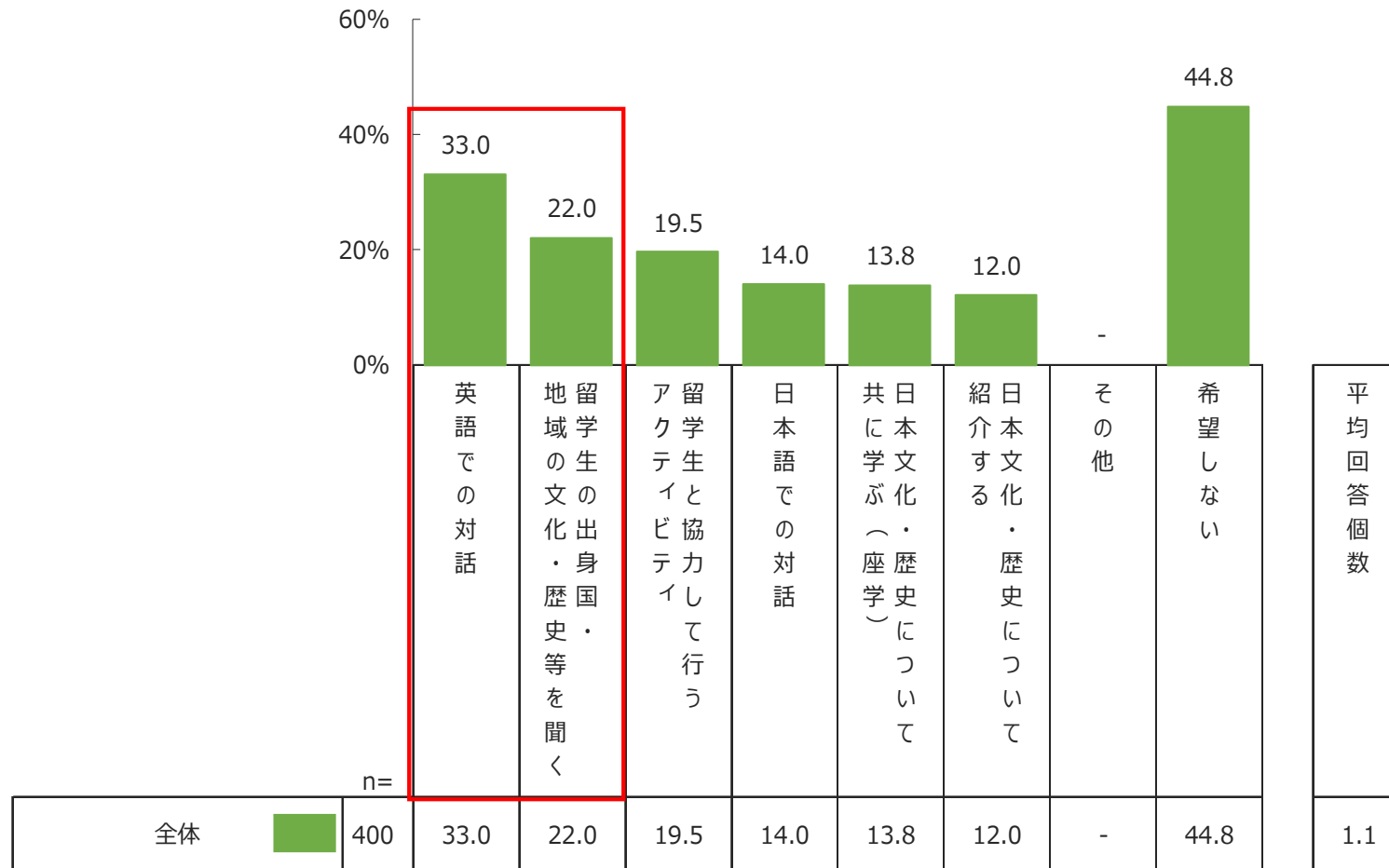
- 高校生全体では、「英語での対話」が41%で最も高く、「留学生と協力して行うアクティビティ」（28%）、「留学生の出身国・地域の文化・歴史等を聞く」（27%）と続く。



Q27 もし外国人留学生との交流の機会があった場合、どのような交流を希望しますか。当てはまるものを全て選んでください。（複数回答）

22 外国人留学生との交流

■ 保護者全体では、「英語での対話」（33%）が最も高く、「留学生の出身国・地域の文化・歴史等を聞く」（22%）と続く。

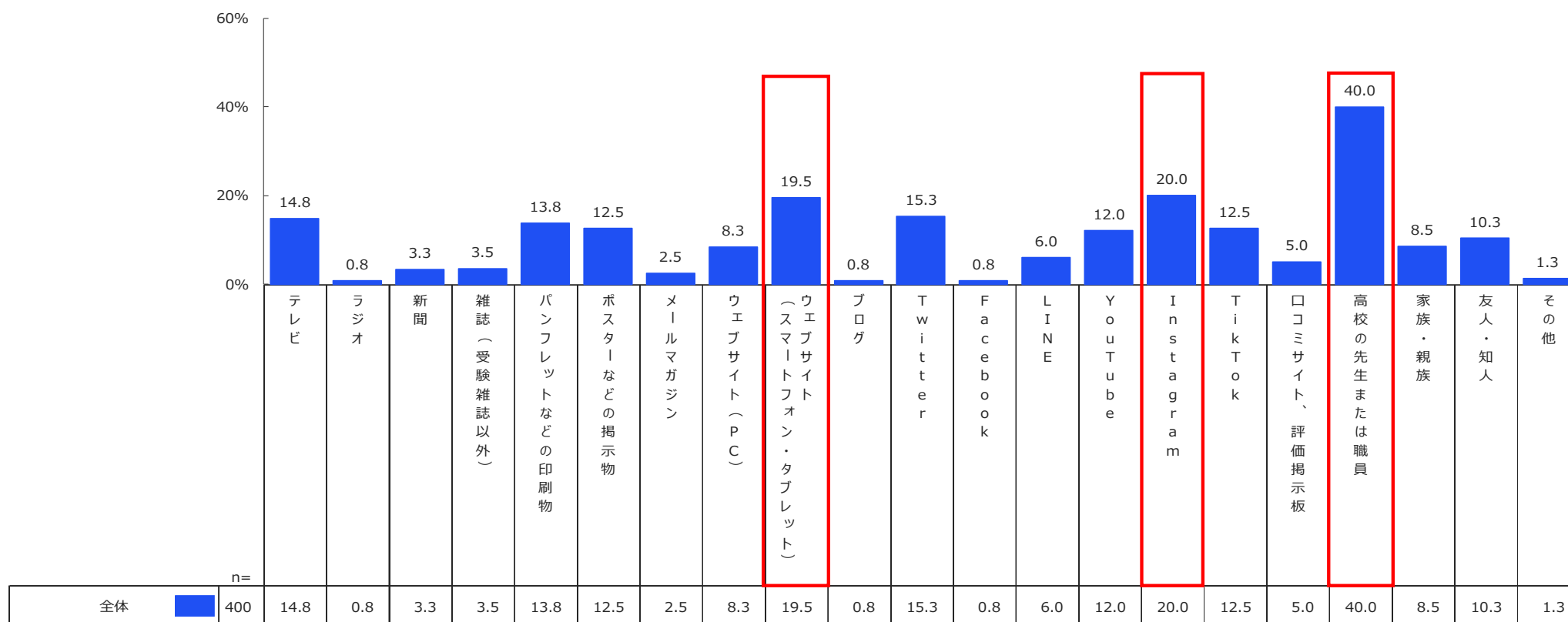


Q27 もし外国人留学生との交流の機会があった場合、どのような交流を希望しますか。当てはまるものを全て選んでください。（複数回答）

23 外国人留学生とのイベントの認知に適した方法

高校生

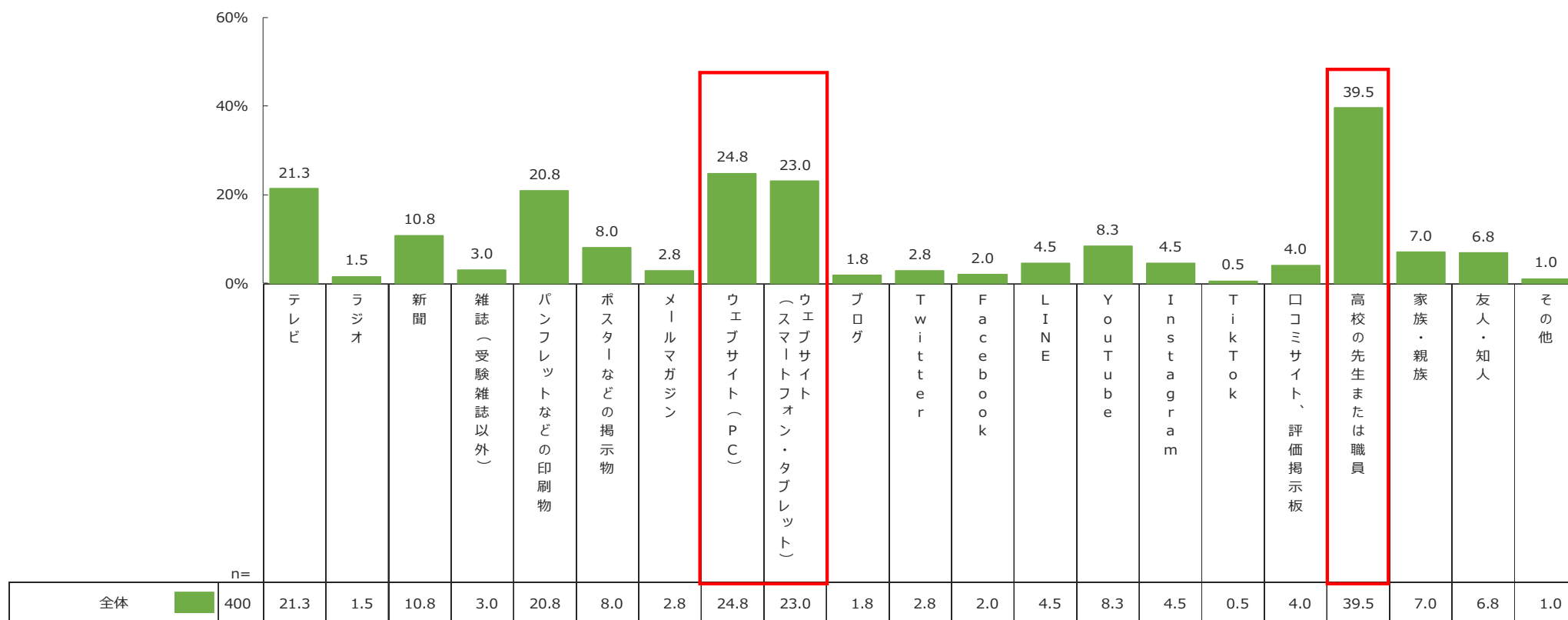
- 高校生全体では、「高校の先生または職員」が40%で最も高く、「Instagram」(20%)、「ウェブサイト(スマートフォン・タブレット)」(20%)と続く。「Twitter」(15%)、「YouTube」(12%)等の回答も多く、SNSによる周知が効果的であると考えられる。



Q28 外国人留学生との交流イベントについて、どのようなもので案内されていたらより知ることができるとおもいますか。主なものを3つまで選んでください。(複数回答)

23 外国人留学生とのイベントの認知に適した方法

- 保護者全体では、「高校の先生または職員」が40%で最も高く、「ウェブサイト（PC）」（25%）、「ウェブサイト（スマートフォン・タブレット）」（23%）と続く。高校生と比べると、SNSの割合は低く、ウェブサイトなど他の媒体のほうが適していると考えている様子。



Q28 外国人留学生との交流イベントについて、どのようなもので案内されていたらより知ることができますか。主なものを3つまで選んでください。（複数回答）

24 日本学生支援機構に対してイメージされた単語

高校生

保護者

高校生

1つめ

- 奨学金
- 難しい
- 支援
- 留学
- お金
- 学生支援
- 安心
- 真面目
- 信頼
- 堅い/固い

2つめ

- 留学
- 奨学金
- 支援
- 難しい
- 学生
- 大変
- 返済
- 安心
- 借金
- 楽しい

保護者

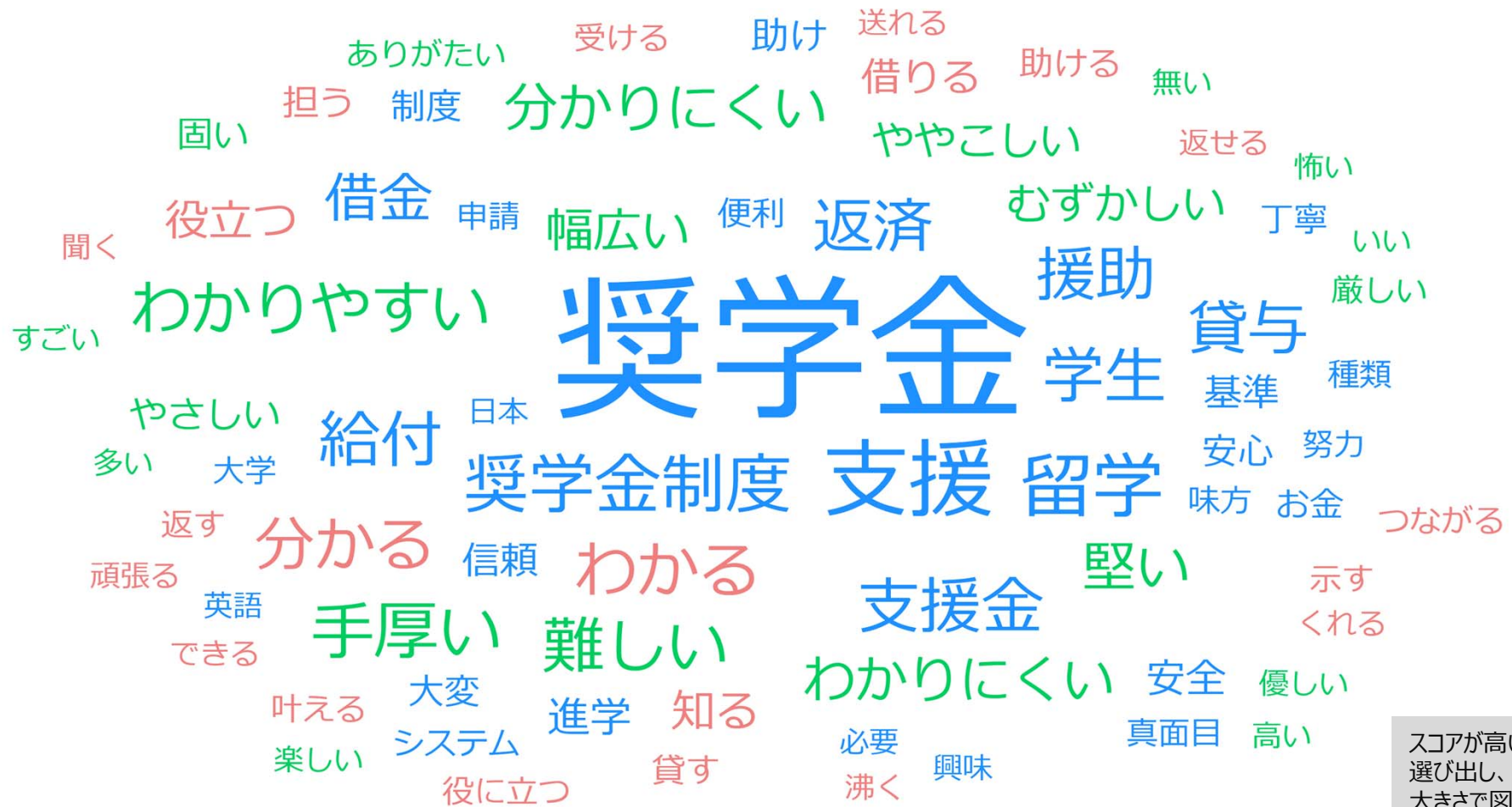
1つめ

- 奨学金
- 支援
- 難しい
- 希望
- 借金
- 留学
- 堅い/固い
- 信頼
- 援助
- 情報不足

2つめ

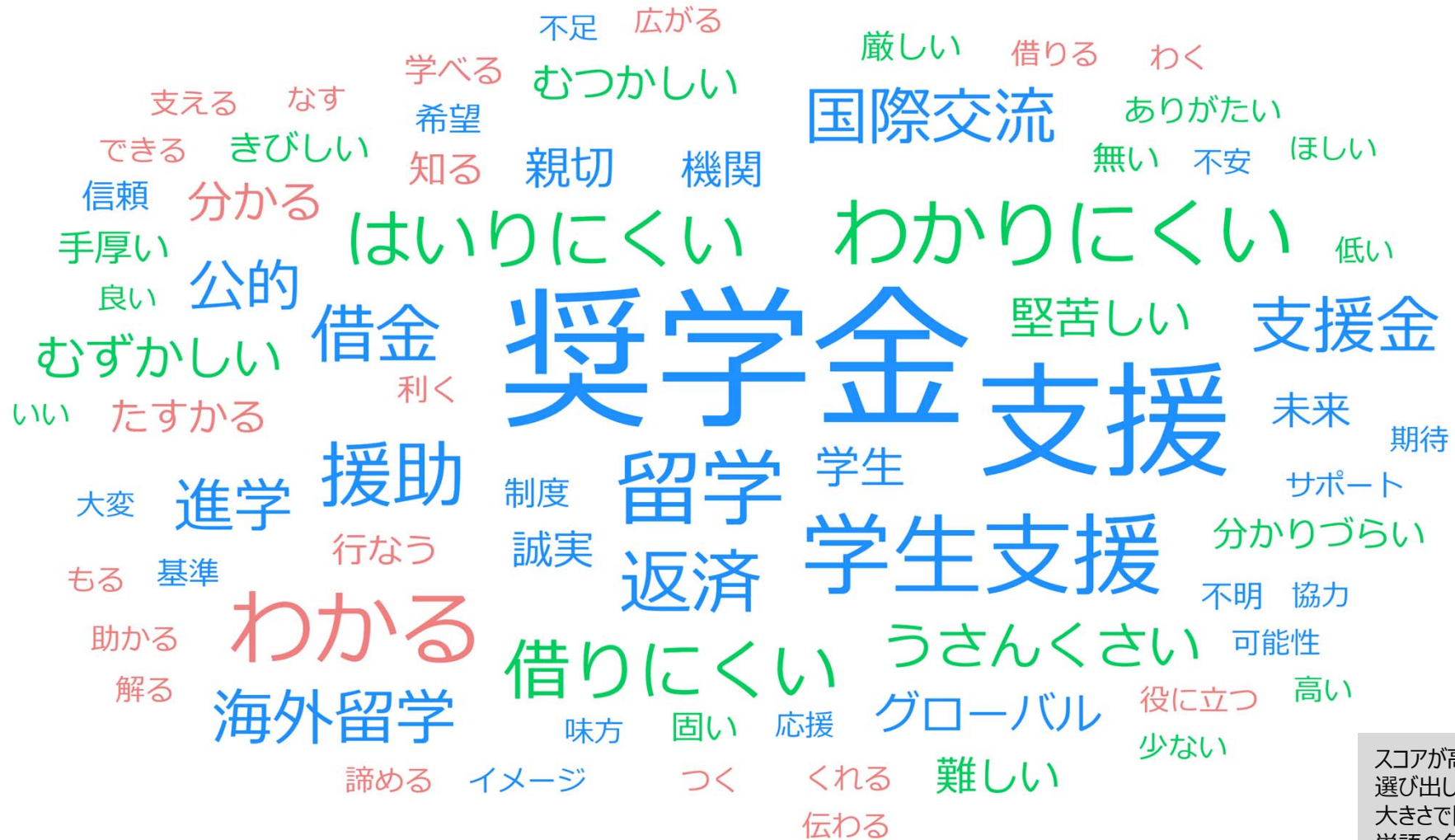
- 支援
- 留学
- 未来
- 返済
- 親切
- 難しい
- 学生支援
- 不安
- 希望
- 学生

Q29 このアンケートやマスコミの報道、日本学生支援機構（JASSO）の広報物などを通して、日本学生支援機構（JASSO）に対してイメージする単語を2つ挙げてください。
（自由回答）（上位10項目抜粋）



スコアが高い単語を複数
選び出し、その値に応じた
大きさを図示している。
単語の色は品詞の種類別
で、青色が名詞、赤色が
動詞、緑色が形容詞を表
している。

Q29 このアンケートやマスコミの報道、日本学生支援機構（JASSO）の広報物などを通して、日本学生支援機構（JASSO）に対してイメージする単語を2つ挙げてください。
（自由回答）



スコアが高い単語を複数
選び出し、その値に応じた
大きさを図示している。
単語の色は品詞の種類別
で、青色が名詞、赤色が
動詞、緑色が形容詞を表
している。

Q29 このアンケートやマスコミの報道、日本学生支援機構（JASSO）の広報物などを通して、日本学生支援機構（JASSO）に対してイメージする単語を2つ挙げてください。
(自由回答)

25 日本学生支援機構へのご意見・ご要望

高校生

保護者

高校生

- ・ 奨学金の仕組みをYouTubeやインスタなどで教えて欲しかった。
- ・ 学生が情報を集めやすいようにYouTubeやTVなどで説明してくれると分かりやすい。
- ・ 留学や奨学金の支援が豊富で良い事業だと思います。ポスターなどに詳細な情報を多く載せてほしいと思います。
- ・ 給付型奨学金の制度の対象者を広くしてほしい。
- ・ 給付型奨学金の枠を増やすとともに、申し込み方法についての情報をより開示してほしい。
- ・ そういう制度があること自体を知らない人は多いと思う。高校と連携して、奨学金についてもっと情報を提供して欲しい。
- ・ 日本人の学生に無利子で貸し出していただけるような奨学金の提供を求めます。
- ・ 具体的にやっていることをわかりやすく目にする機会が多く有れば認知度が上がると思う。
- ・ 日本の学生がもっと気軽に留学しようと思える制度を作って欲しい!お金のせいで諦めたくない。
- ・ もっと学費に対しての不安を解消できるようなものを作ってほしい。借りられる金額とかもう少し必要なの。

保護者

- ・ 子供が中学生くらいの頃から知りたかったので、もっと広くあちこちで情報が出ていればいいなと思いました。
- ・ 学生支援機関は高校生からあると思っていたが、小学校の段階から、周知徹底しても良いと思う。子供たちも早い段階から情報を知ることは大切だし、親も資金の計算をするのに役立つのでは。
- ・ もう少し分かりやすく、簡単かつ簡潔に支援してもらえたらいい。給付型が増えるといい。
- ・ もう少しわかりやすい広報活動をしてほしい。
- ・ もっと学校から資料だけでなく詳しく教えてもらいたかった。つまりは学校の先生等の認知をあげるといいのだろうか？
- ・ 手続きが煩雑すぎる。
- ・ 給付奨学金の要件を緩和してほしい。
- ・ 内容を出来る限り分かりやすくして、全ての子どもたちに届けられるよう頑張ってもらいたい。
- ・ 学生本人が借りることによって、勉強に取り組む姿勢もいい方向にむくと思うし、家計の問題も考えず、好きな道に進学することができる。
- ・ 直接質問できるメール、チャット、電話があるといい。